北支
現地編輯
THE NORTH CHINA
6

FLOWERS OF THE SEASON

國花牡丹‥‥北京・太廟にて‥‥

季節の花

百花歴亂　鶯聲歷々と歳時記は北京の六月を讃へる。淺春のときのまにほころびそむる花のかずかずは　そのまま　初夏の夜になやましい香を流すのだ。宵闇に沈丁花の匂ふひととき　紫玉蘭の厚い花びらのゆれるとき　奥深い庭の隅から立ちならぶ街路樹の枝々から　槐が　いつせいにつつましい花を咲かせて　人は逝く春をおもふのである。やがて　夏もふかくなると可憐な花束が　まちのみせさきに　露を含んでならべ

られる。白蘭花　茉莉花　晩香玉　など　みんな白いかぼそい花である。白いかぼそい花なればこそ　鈴蘭にもまして　ゆかしいかをりをはなつのである。腕もあらはに　乳房のふくらみもそのままなをんなの胸にあるひはその黒髪に　これらの花はふくいくと麗人のなさけを籠める。さらに　しつとりと動かぬ夜氣に誘はれては　ひとしほの移り香を漂はせ　行きずりのやるせなさを増さしむるのである。

澄みわたる朝ぞらに　鳩笛が餘韻を曳いて　六月のまぶしい光がちまたにみなぎるころ　古都は　うつぜんと森の都になり　けんらんな色彩が映えてくる。樹海を點綴する紫禁城の黄の甍　牌樓の朱　樓門石階の大理石の白　畫舫の青丹　行人の裳裾などなど。そして郭公の啼く交民巷の遊歩道には　兩側に竝ぶ合歓の花が桃色にぼかされて　夢のやうに滲み　白鷺の宿る大廟には　あでやかな牡丹が目も綾に狂ひ咲く。つづいて芍薬、それに蓮など。北海　中南海の水面をおほふ夥しい蓮の　甘酸いきよらな香もまた　せつに待たるるもののひとつ。かくて季節のリズムは　みやくみやくと。老北京には　强烈な匂と色との初夏がたけてゆく。

紫玉蘭・・・・北京・萬壽山にて・・・・

鹽

その一

產　地

海鹽――塘沽、蒝蘽、青島、海州

陸鹽――山西、察哈爾、綏遠

產　額（昭和十三年）

長蘆鹽　四〇萬トン

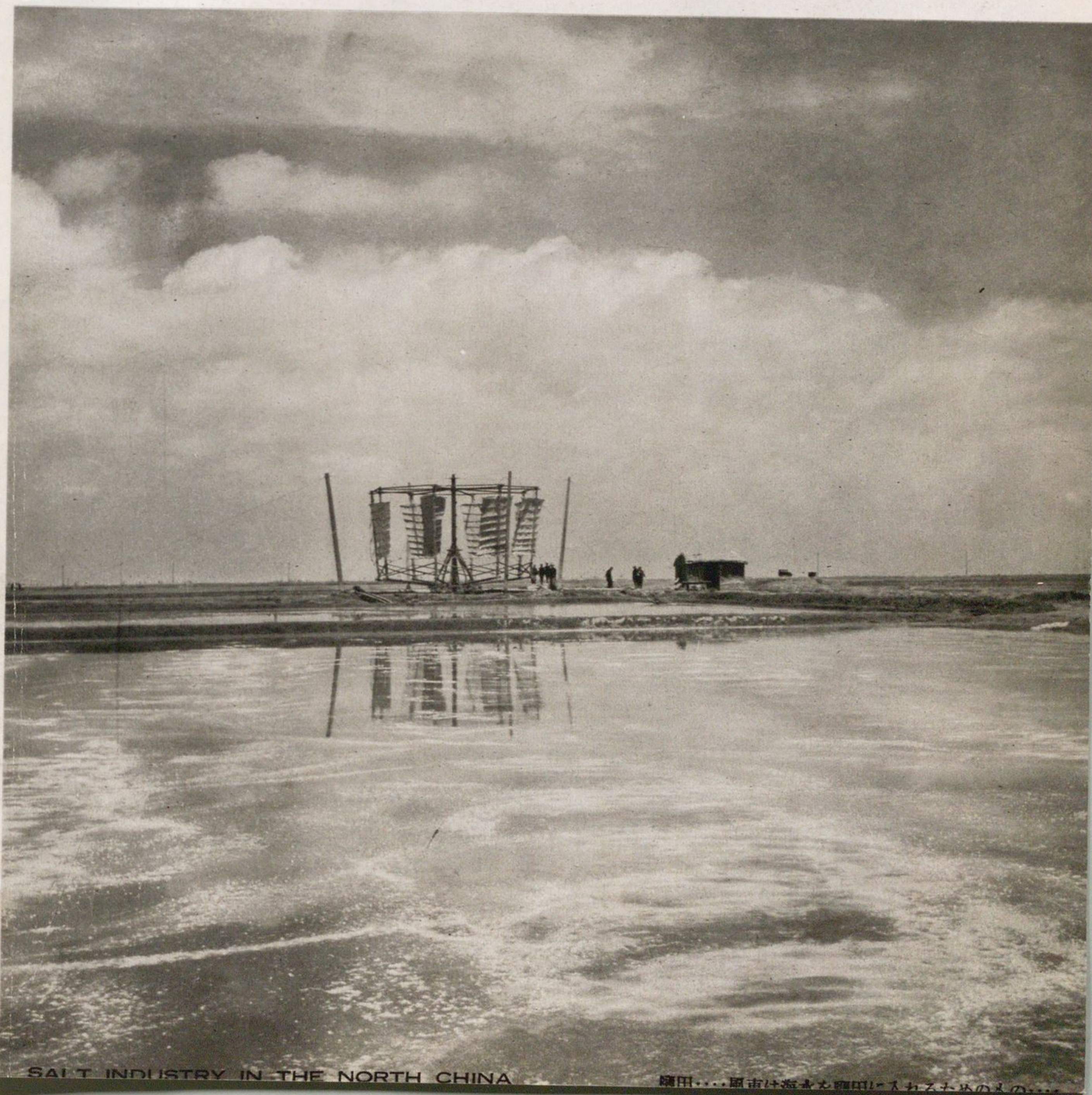
山東鹽　四〇萬トン

海州鹽　五〇萬トン（能力）

對日輸出額（昭和十三年）

長蘆鹽　三〇萬トン

山東鹽　一五萬トン

天津航路の船が白河の河口に近づくと黃濁した海水と蒼空との境界、遙かに海岸線と思はるゝ一帶が、くつきりと純白の一線をなしてゐるのに先づ眼を惹かれるだらう。やがて、それが紫にまた綠に眩しく映えるころ、特異な風車を持つ鹽田風景が展開する。長蘆鹽の名で聞ゆる、白河兩岸の大鹽場である。米鹽の資といはるゝが、日常生活だけでなく、化學工業の發展につれて原料鹽の多寡は一國の消長に影響するといはれる。日本は人絹を先頭にして一躍世界の化學工業國となつた。しかしその基礎をなすソーダ工業の原料、つまり鹽の生產は洵に心細い狀態にある。外國のソーダ工場が大抵その直下に豐富な岩鹽層を持つてゐるのに反して、日本では一トンの岩鹽も出ない。

SALT INDUSTRY IN THE NORTH CHINA

鹽田・・・・風車は海水を鹽田に入れるためのもの・・・・

鹽の採取

積上げられた鹽の山

塘沽の永利化學工廠

SALT INDUSRY IN THE NORTH CHINA (CONTINUED)

製品は先づ麻袋に入れて野積場へ

同廠の內部

戎克で積出し

鹽

その二

これで年々何十萬トンかのソーダを生產してゐるのは世界廣しといへども日本だけである。工業用鹽は全部を遠くエヂプト、スペイン、伊領ソマリーランド、アメリカ等から輸入してゐるのであつて、今日のやうに時勢がやかましくなると、粗惡でも自分の勢力範圍から得られる天日製鹽に賴らねばならぬのである。昨年度の日本の鹽消費高は約二百五十萬トン、そのうち內地の產鹽は僅かに六十萬トンに過ぎず、北支を含めた勢力圈から輸入し得るのは百萬トン內外で、關東州や滿洲の鹽田計畫が順調に進んでも自給自足までには相當の距離がある。こゝに北支の鹽特に最も有望な長蘆鹽が問題視されてゐるわけである。北支の產鹽は、長蘆鹽に山東鹽を併せて年八十萬トンであるが、現地當局では五ケ年後二百五十萬トンの增產計畫をたて、日本の需要に應じようとしてゐる。長蘆鹽田については興中公司は五ケ年計畫で休止・荒廢鹽田の復活を行つて、現在の九千町步を含めて二萬町步へ擴張しようとしてゐるし、東拓でも渤海鹽業との共同出資で一千萬圓の新會社を設立するなど對日輸出七十萬トンを目指して異常な意氣込みを見せてゐる。山海關か

製造された曹達

鹽の精

工廠及び野積場全景

曹達製

ら黃河々口まで海岸線の延長實に一千餘支里の大鹽場[illegible]ては驚くの外はない。津浦線の滄州がこの鹽場の發祥地で、一面に蘆荻の茂つた荒地を拓いたので其名を長蘆と呼ぶやうになつたといはれてゐる。現在は蘆臺と豐財の二場だけであるが清初の康熙年間には十六場を開いてゐた歷史がある。土地が平坦で廣大なこと、大氣は乾燥して雨量少く、しかも製鹽最盛期には殆ど雨を見ないといふやうに、天日製鹽としては凡ゆる理想的條件に惠まれ、世界一の最適地だと折紙を付けられてゐる。

青島を中心とする山東鹽も大增産を目論まれてゐるし、また最近連雲、海州一帶が我軍に確保されたので、五十萬トンの生産力ある海州鹽も日本の勢力圏に仲間入りしたわけであり、旁々腰の据ゑかた如何では殆ど無盡藏に供給できるのである。

現地の鹽を原料にする精鹽とソーダ工場には、塘沽の永利化學、渼沽の渤海化學など相當の設備を持つものも少くない。中でも永利化學はソーダ日産二千四百トン、製品は純白で外國品に劣らぬ優秀品を出してゐる。

唐山を中心とする豐富な石灰と開欒の石炭、これに長蘆鹽を配すれば、北支の現地に於てもソーダ工業の前途は洋洋たるものがある。さらに、蒙疆地方は、大小無數の鹹湖に天然ソーダの無限の寶庫を抱いてゐる。今は交通不便のため問題にならぬが、やがて大きく物を言ふ日もあらう。

山西縦貫

RECONSTRUCTION OF THE TUNG-PU RAILWAY

拓け山西鐵路は千里
ことしや長安是が非でも

けふの測量ぢや野營をするが
こんど來るときや展望車

馬は斃れるトラックは沈む
宿はまだかよ日は暮れる

凍る曠野にきづいた路盤
けさの粉雪でうす化粧

きのふ二工區けふ三工區
はやく敷きたや寧武まで

鐵路建設命はまとよ
たまがどんと來りや人柱

命ささげて出て來ちやをれど
可愛いわが子の夢も見る

後はたのむと笑つて死んだ
友に見せたいこの列車

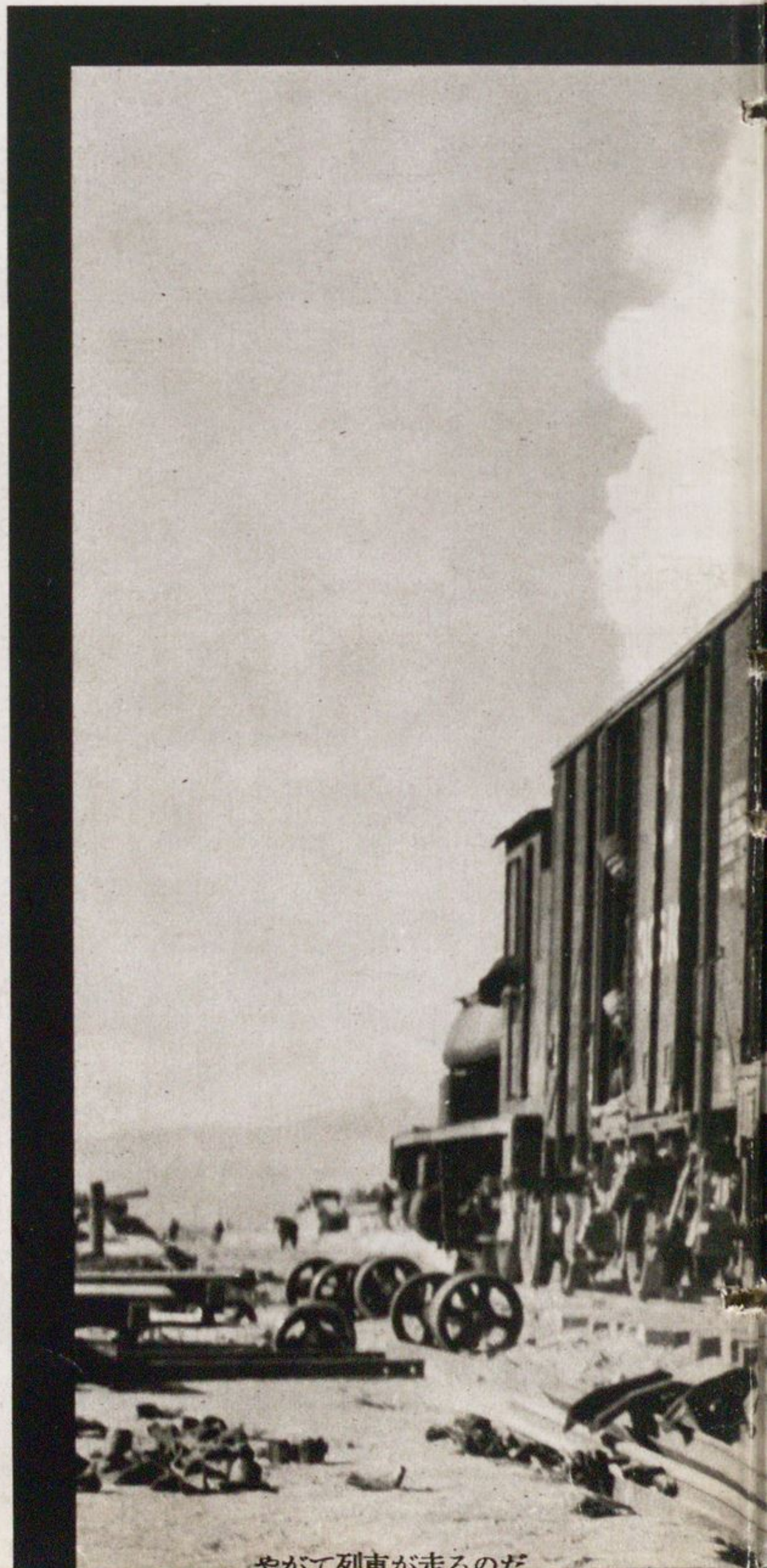
京包線の大同から南下して黃河々口の風陵渡口まで山西省のほぼ中央を南北に縦貫する同蒲線、これは

閻錫山の山西建設十ケ年計畫の根幹として、ベルギーその他の外國借款千百餘萬元を注ぎこみ、三年がかりで南端から原平までの建設を完了、事變前には餘すところ原平・大同間のみとなつてゐたのである。八達嶺の嶮を突破して山西の山岳戰に移つた我軍は、敵を南方に蹴散しつゝこの未完成部分の全通に努めたのであつた。器材、人夫、技術員など萬端缺乏のさ中に、しかも黄土沖積層からなる山また山の工事は、文字通り難工を極めた。

その軍鐵一致の努力酬いられて大同から南端に近い運城までの七百六十餘キロは目下假營業されつゝあり、大同から寧武までの百六十五キロは一メートルの狭軌から標準軌道へと面目を一新した。沿線一帶の豐富な資源に加へて、古く堯舜以來の古蹟と多彩な景勝に惠まれたこの線は、更生山西の大動脈として、早くも潑剌たる躍動を見せてゐる。

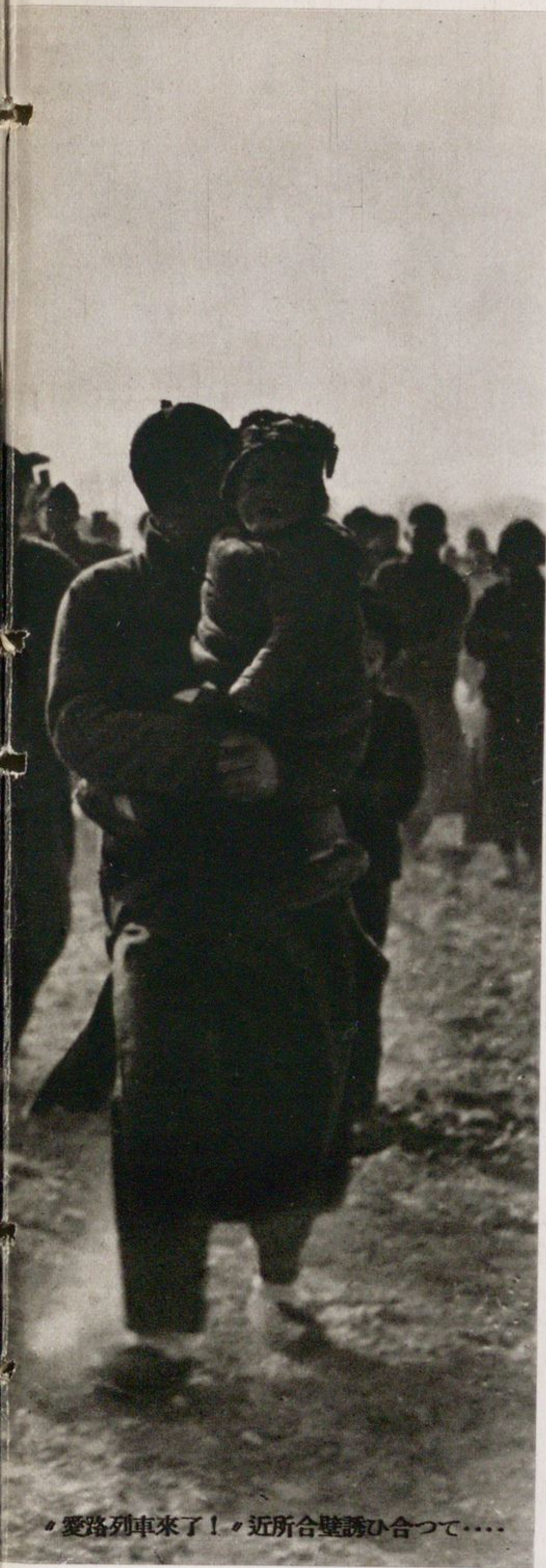
電線架設‥‥伐り倒した材木の肌もその儘で‥‥

延ばされてゆく鐵路

曠野に響く建設の懸聲

やがて列車が走るのだ

愛路列車來る

HERE COMES

A "WELFARE TRAIN" !

〃愛路列車來了！〃近所合壁誘ひ合つて‥‥

待ちに待つた愛路列車がいよいよ今日は著くといふ日、村は朝から沸きたつやうな騒ぎだ。今度は北京から一流の藝人が來るといふし、廉くて良い品をどつさり積んだ廉賣車、病氣を診てくれて藥も無料で貰へる施療班も乘込んでゐるといふ話。此處は驛前の廣場。紅白の幕を張つた假舞臺には、彩とりどりの萬國旗がひらめいてゐる。もう演藝が始まつたらしく、調子のいゝ三味線の緩

蛇皮線を聽ける

やかな音色が流れてくる。つぎは呼物の支那手品、さては輕業に漫才と盛澤山な番組だ。若草の甘い香りが微風に搖れて、爆笑や拍手の渦が舞ひ上る。

ホームに並んだ列車にも一杯の人だかり。頭の腫物に眞白な繃帶を卷いて貰つた趙さんや、持病の眼病に手當を受けた陶さんが、人ごみを分けて下りてくる。一方、廉賣車のメリケン粉、砂糖、鹽など奪ひ合ひの物凄い賣れゆきだ。紅い花模樣の鞋を抱へた娘さん、得意さうにラッパを鳴らす鼻たれ小僧、纒足のお婆さんも小さい髷に花簪をさしてゐる。：：今日ばかりは近郷近在お祭り氣分の樂しい一日。

北支・蒙疆では、鐵道線路の兩側それぞれ十キロの地域にある部落はすべて鐵道愛護村といつて、村民は義務として鐵道を擁護せねばならない。その代り鐵道側から色々の便益を與へられる、つまり民路合作、鐵道と民衆が一體となつて扶け合はうといふ仕組である。北支・蒙疆の全人口を八千萬とすれば、愛護村八千ケ村、現在村民千五百萬人はその約二割を占める。鐵道は軍閥政客の私腹を肥す道具とばかり思ひ込んできたこれだけの民衆が、鐵道を中心にして親日に目ざめつつあることは注目すべき動きであらう。

悪魔のまはりを廻る神秘的な踊り……箱の中の人形は悪魔……

グロテスクな踊りのお面

惡魔燒滅！

昔インドに信心深い婆さんがゐて、養鷄で儲けた金で立派なラマの寶塔を建てた。それには水や石を運搬した牛も脊の皮が剝げて血を出すほど骨折つたのだが、婆さんは人間達にばかり御禮して牛には何の褒美も吳れなかつた。過勞が因で牛は死んだ。しかし、悶悶の不滿を抱いてゐた魂は迷つて、チベット二十七代の太子ランダルマ王に生れ變つた。この王は大のラマ教嫌ひで、片ッ端からラマ廟を打毁しラマ僧を殺すので、ラマの國チベットは大恐怖に襲はれた。その時、忽然として現はれたのがその名をフアーシヤン・ジヤルボといふ人物。王暗殺の機會を覗つてゐるうち正月になつた。餘興をやるとの觸込みで王を招待し、同志に鬼や獸物の面をかぶせて面白をかしく踊らせた。それは嘗てない珍奇な踊だつたので流石の王も悄然と見惚れてゐた。折はよしと、ジヤルボは王に迫つて目的を達した。ところが執念深い牛の化身たる王の靈魂は、諦めきれずまた迷つて今度は水精となり、山の頂から麓の寺にどんどん水を流して暴れ廻る。これはてつきりランダルマ王の祟に違ひない、といつて寺の人達はジヤルボの遺方を眞似て鬼面獸面の踊をやつた。すると不思議、水は忽ちひいてゆくのであつた。――蒙古や滿洲のラマ廟で毎年盛んに行はれるグロテスクな「打鬼」にはこんな傳說がある。寫眞は北京雍和宮のもの。

ランダルマを逐ふ

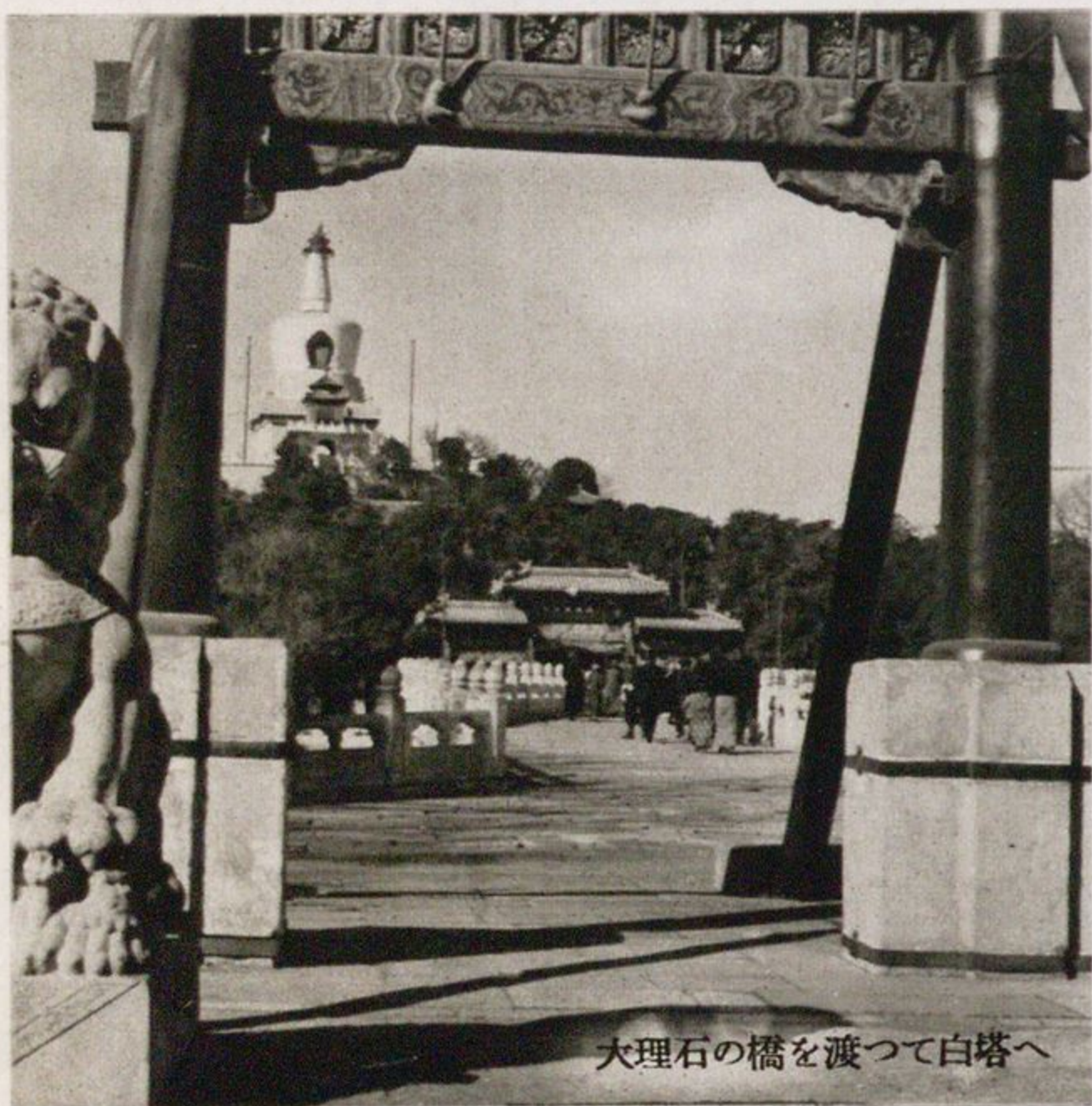
奇々怪々な悪魔〃ランダルマ〃の出現

LAMA'S CURIOSITY

北京の水

北京は一般に森の都と呼ばれてゐるが、内城のまん中に北海、中海、南海があり、城外に昆明湖があるので水の都ともいへる。
北海は遼から淸まで各朝の宮殿が置かれたところ。湖は周圍約四支里もあるが人工のもので、おなじみの元の忽必烈が籠城の用水に掘り、その土で白塔山とお隣りの景山を築いたといはれる。初めての人は龍宮のやうだと感嘆してしまふ。遼の太后、金の章宗の李妃がわざ〳〵ここに化粧臺を設けたといふが、さしづめ乙姫さまのやうに美しくなりたかつたのだらうし、美しかつたのだらう。ここで各朝の皇帝があでやかな畫舫で舟遊びをしたり、淸朝八旗の武士たちが晴れの御前で舟戰、水練を演じたのだ。
白塔は高さ十餘丈、白塔山の頂上に南面して聳えてゐる。淸の順治帝が南方族調伏に建てたものらしいが、まつ白く圓味を持つた線の優しさを見ると調伏の凄味はさらにない。ここに上れば北京は見わたすかぎりの樹海、遠く外城の各門や天壇、近く目の下に紫禁城がある。
北海の水は長い支那の興亡の歷史を映して來たわけである。四季遊ぶ人が絕えないが夏は水に憧れる人で特に賑ふ。

石廊の端の茶房でひと休み‥‥丹靑の畫舫で向ふ岸へ‥‥

北京はほんとうに森の都‥‥北海から中南海を望む‥‥

大理石の橋を渡つて白塔へ

外人たちの魚釣り

EARLY SUMMER OF PEKING

天津の水

白河の水はドロドロとチョコレートを流した様な濁流です。名前が白い河だからきれいな流れと思つたら間違ひです。白河は河口から天津まで蛇のやうにグルグルと九十九回曲つてゐるので百の上の一をとつて白河と稱されてゐるさうです。なんとベラボウな支那式名稱ではありませんか。河北と河南を結ぶ南運河、山西省から流れて來る子牙河、八達嶺の山中に源を發してゐる大清河等の河川が天津で白河と連なつてゐます。天津が今日の大をなしたのはこれ等の水運の要衝にあたつてゐたためと云へます。滿潮時になりますと河口の塘沽から天津まで一千トン級や二千トン級の船が遡つて來ます。白河は北支貿易の咽喉部と稱されるほどで輸出入總額三億六千萬圓、北支貿易額の六割を占めてゐます。輸出品の主なるものは、棉花、羊毛、落花生等で、輸入品は綿織物、木材、機械類であります。

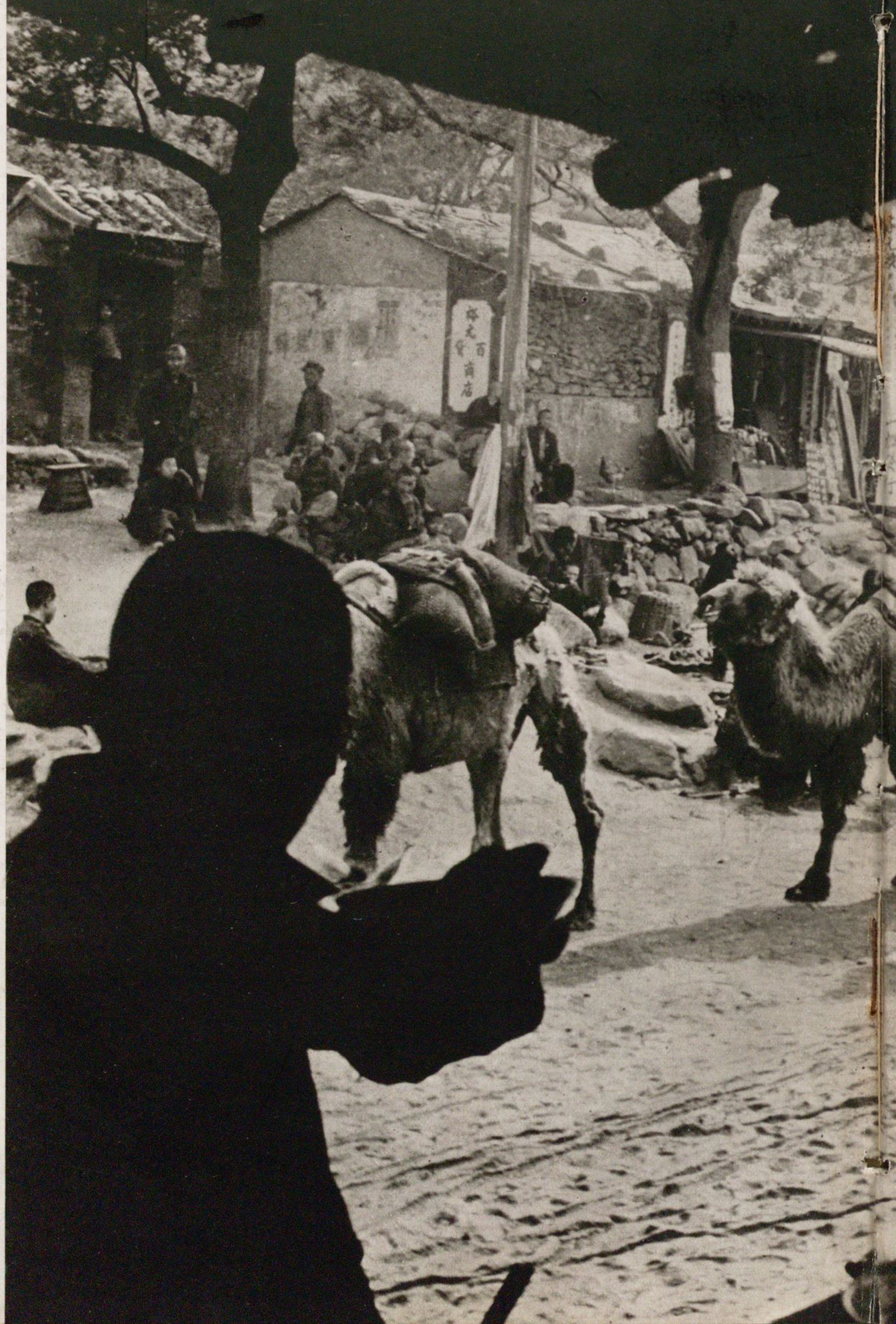
岸壁から棉花の積込み

萬國橋……一日二回かうして船を通す……

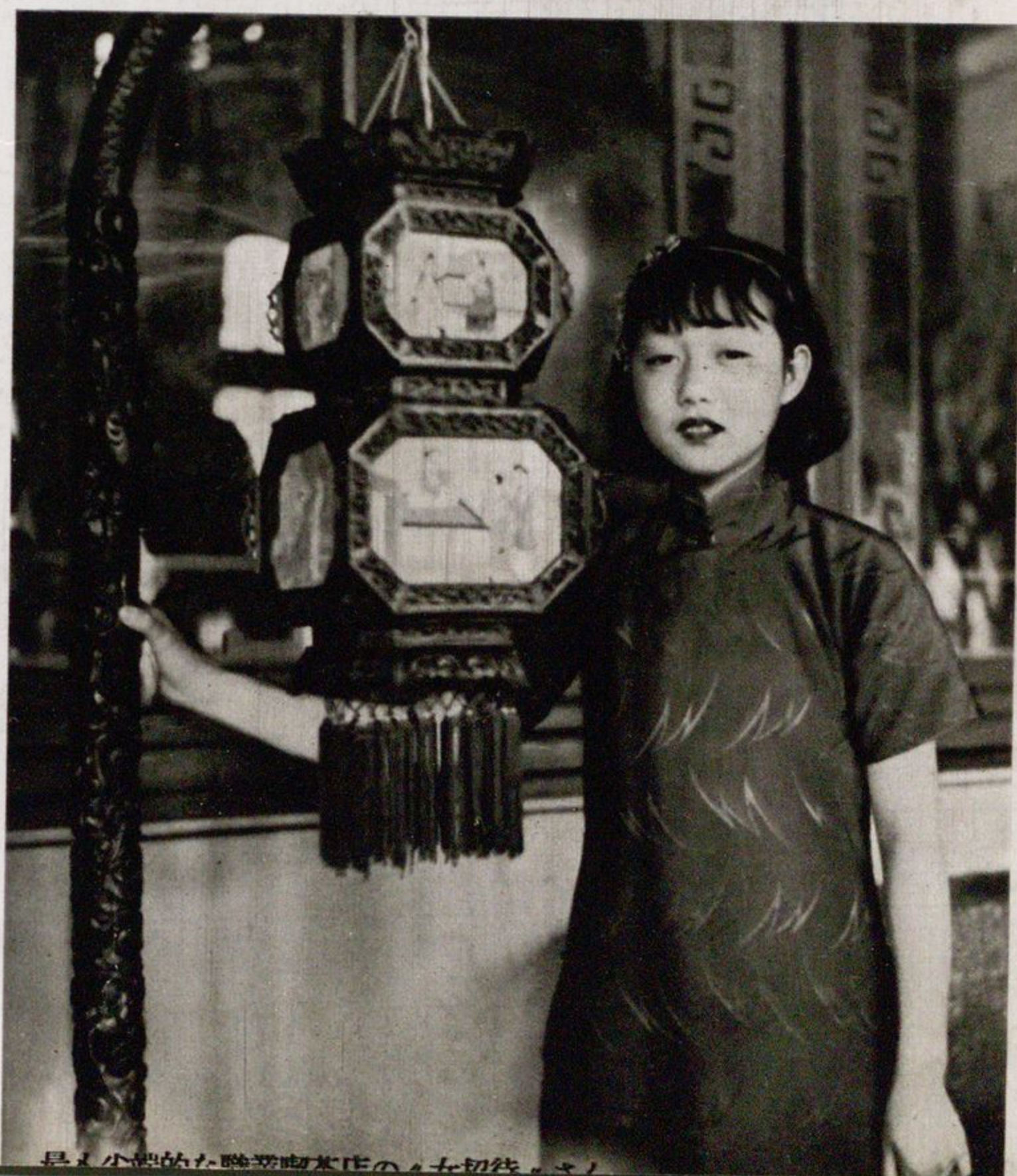
……水運の動脈白河の大觀……

岸壁の積卸し作業

河に沿うて建並ぶ倉庫

門頭溝の朝 京漢沿線・石炭の産地
IMPRESSION OF MEN-TOU-KOU, NEAR PEKING

看護婦〃さんたち

支那料理のサービス・ガールを〃女招待〃と言ひます

憧れの的〃打字生〃さん

最も尖端的な喫茶店の〃女招待〃さん

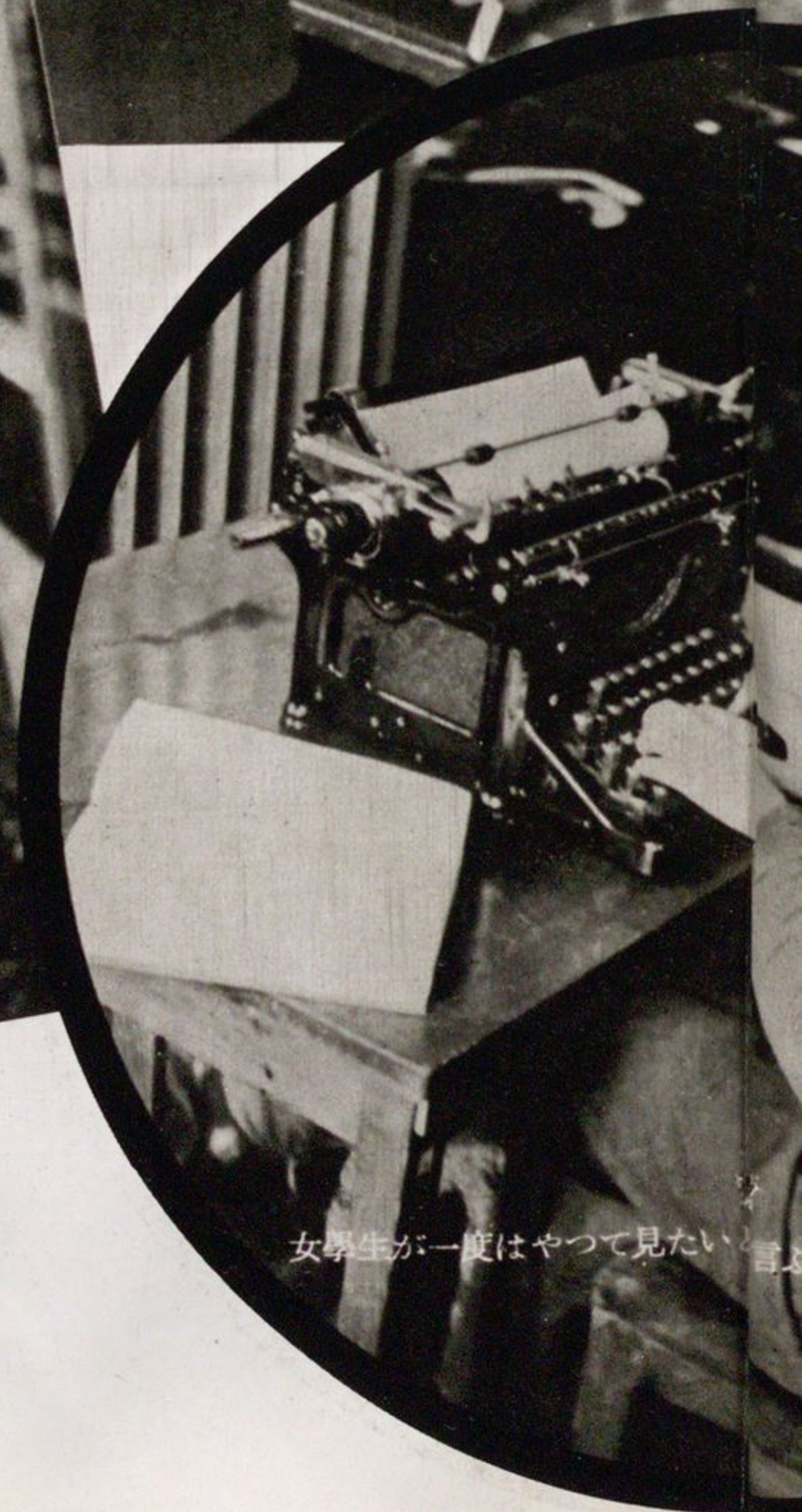
働く女

支那では娘つ子はワハヽヽと笑つてはお行儀が惡いのである。オホヽヽとおちよぼ口で俯きかげんにほほゑむ程度でないといけない。足は纒足三寸位が理想的で、歩く姿などなよなよと柳がそよ風にをのゝくやうなのが、もつともよきものとされてゐた。女の魅力の要素として昔から支那では—祕密—とか—隔離—とかいふ思はせぶりな習慣が普遍してゐた。娘つ子がとしごろになるといはゆる隱棲を强ひられたのもそのためである。間仕切りの蔭から覗くことはあつてもめつたに他人樣に顏を見せない。これが女性の品と沽券を高からしめたものであつたのだ。けれど、近代文明の嵐は、あれほど堅固な間仕切りも、纒足も崑崙の谷底へ吹き飛ばしてしまつた。彼女らは今やパーマネントにハイヒールといふいでたちで、颯爽として街頭に現れた。アツハヽヽと高らかに笑つて、——私だつて働けるわ——とたいしたけんまくでどんどん職業戰線に進出してゐる。日本のお孃樣方どうぞ負けないやうに。

〃イカガデスカ〃と日本語を習ふのに懸命な

〃オハナシチユー〃と日本語も上手な〃司機生〃さん

女學生が一度はやつて見たい

WOMEN PREOCCUPIED AT THEIR WORK

おやぢイ
もうめしにしようやア
蒙疆懐来盆地を横ぎつて居庸関の宿に着いたので一休み

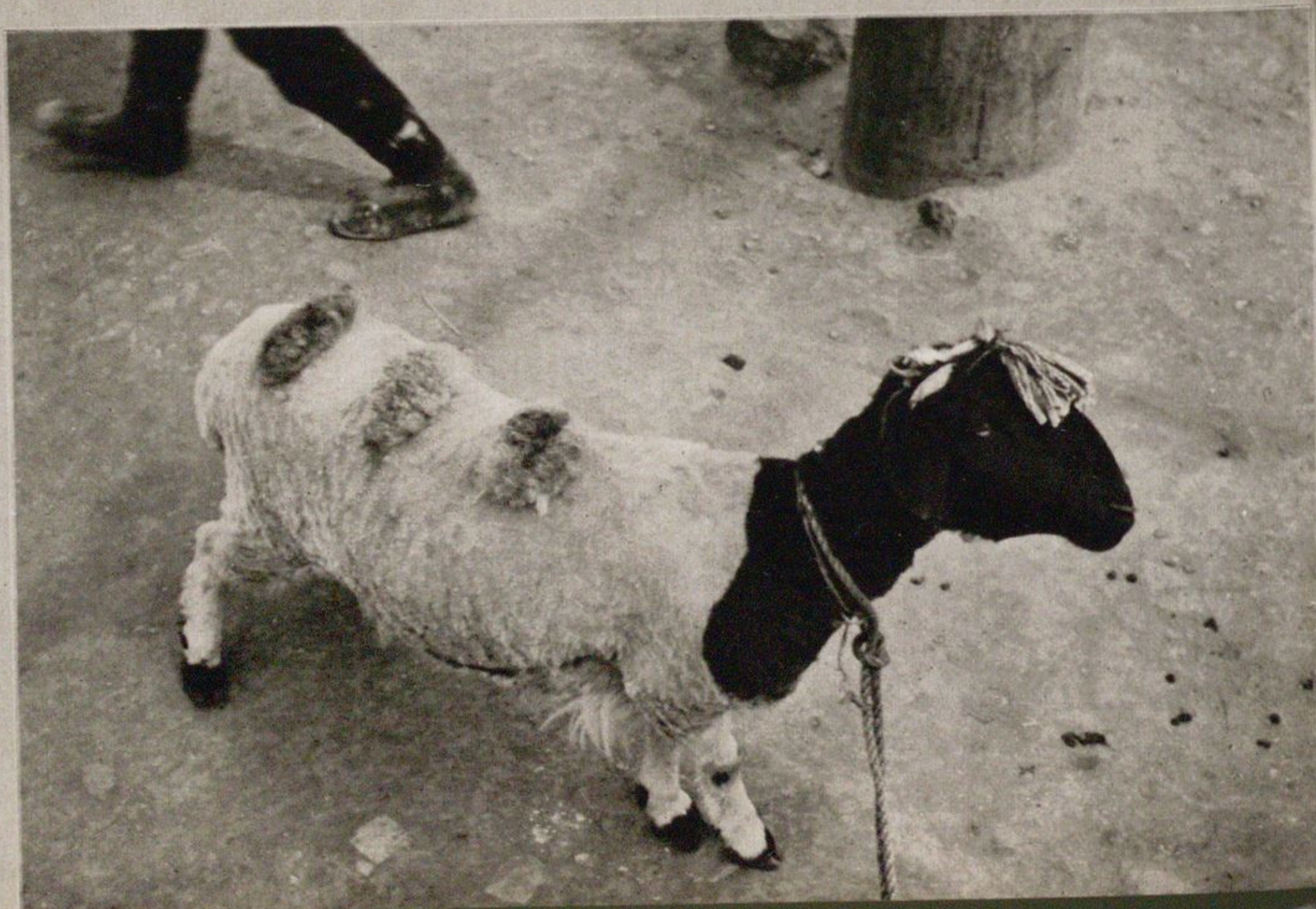
ちいとばかりメカシすぎて羞しいんですがネ。なにぶん花嫁さんを曳くんでね……

けだもの登場

あたしは村中で一番評判の小羊よ。あたしをおよめにほしいとみんながいつてるわ。
毛をところどころ刈り残し、赤・黄・紫の絵具で染めたり、リボンなどく、つて羊肉

ANIMAL'S KINGDOM

ブーブー 痛エよう

電車道に散歩に出たので引捕へられた豚

屋の看板に使はれる

女の子が鳳仙花を摘んで爪を染めるころになりました。早いもので北京に住みついてもう半年です。五年も六年も住んでゐるやうな氣がします。都の古いせゐでせうか人情の濃（こまやか）さのせゐでせうか、異國の戰亂の巷の中にゐてこの落ちつきは人間生れる以前の故郷に歸つた安らかさです。

もつともこちらについたときは少しは日本語の通ずる所と思つてゐましたのに、西も東もわからず主人の出勤したあとは買物にも出られず心細く子供を相手に暮してゐましたが、この頃は支那商人を相手に値切る事も上手になりました。子供は私より支那語がずつとうまく支那人の子供とまゝごとをしたり喧嘩をしたりして一日遊んでゐます。

今日は端午の節句です。坊やのために鯉のぼりをたてゝやりました。青い空に鯉のぼりの流れるのを見てゐましたら、日本が急に戀しくなつて筆をとりました。つまらぬ寫眞ですが見て下さい。

坊やと孃やは阿"媽"のこどもと大の仲好しでままごと遊び・・・・

生活の設計は住宅から！　今北京は家屋拂底です。やうやく探した支那家屋の壁に窓をあけ、紙張の窓は硝子を入れ、門はお國ぶりに燃えるやうな朱色に塗りました。

北京は日本人の小學校がもう三つできました。一年前迄二百人餘の生徒が一躍三千五百人に增加しました。その中の一つは半島人の生徒ばかりを收容してゐます。

お隣りの支那の公寓です（アパートメントをかう云ひます）。玄關の表札をごらん下さい。ずらりと並んだ日本人、日本人、北京は一日三十人平均で增えてゐるのです

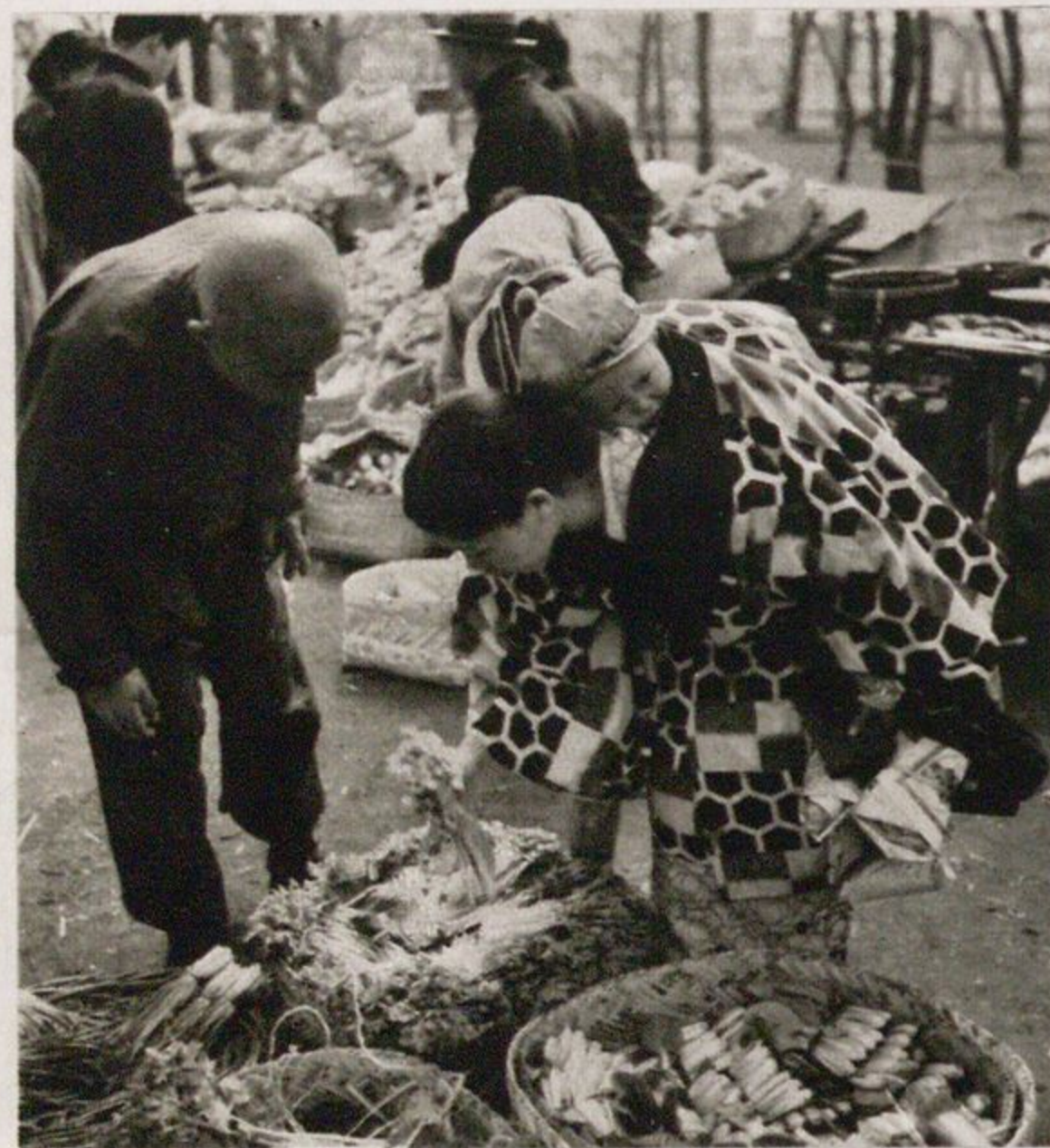
この四月に女學校も一つ開校しました。中學校もできました。小國民の現地に於ける支那への認識こそ、日華親善の何より強い力となるでありませう。

支那では二通りの時間があります。日本時間は支那時間より一時間早く、官廳・役所がこれによつてゐます。煤球兒（粘土と石炭粉をまぜた炭團）で朝飯の支度です。

主人の出掛けたあと、お隣の奥さんとの話は近頃タクアンの品切れから箒一本一圓もすることなど……。坊やは相手にされぬのでふくれてゐるんですの。

春先から直射日光が強くて色めがねも必需品です。でもいくら暑くても木蔭はひやりとする程で濕氣がないだけ案外過し易いです。阿媽の手傳ひで布團を乾しました。

雑貨、食料品店に混つてカフエー太陽とか、おでんや賀茂川とか喫茶ゲーテとか言ふ店が澤山できました。おすしやおでんやおさしみは目の玉の飛び出る程高いさうです

洗濯代が随分安いのです。ワイシヤツが五錢ですから日本と比較になりません。日本人の奥さんは何でも洗濯屋にだす様ですが私はできるだけ家で洗ふ事にしてゐます

果物は人工を加へないのが多いので日本の方が上等ですが野菜は種類が豐富で値段も安い様です。野菜の中の王様は韮です。此頃は手籠を下げて市場に買物に行きます

國防婦人會にも入りました。兵隊さんの送り迎へ、傷病兵の慰問に參ります。昨日は慰靈祭がありました。白いエプロンは珍らしい様で支那人が立止つて見てゐます。

「洋車イコー」日本語を覚えた洋車曳きが聲をかけます日本人、支那人、外人で洋車の値段が違ふさうです。近くで五錢、遠くで十錢、勞働力がとても安いところです

お姑さまが内地からいらして買物にも安心して出られるやうになりました。こそ泥が多くてお隣の木村さんは家を改造する爲の貯金をそつくりとられた事がありました

建築には豪快な無駄をする支那人も食物は實に合理的です。一匹の豚の頭から腸まで殘す處なく乾したり煮たりします。お客様がいらして内地のお酒を一本つけました

水道の水は良いのですが、井戸水は石灰分が多く石鹼の落ちがよくありません。下水道がなくて糞便でも何でも地面に吸ひこませるので井戸水は絶對に飲めません。

日曜日には家中で洋車ドライヴ、北海や中央公園に出かけることにしてゐます。私のお支度がながいんで坊やだいぶん御キゲンなゝめです。

とりどりの花がまちに溢れてゐます。お土産に一鉢買ひました。五月一日から五日まで民家の婦人子供が晴着をきて柘榴の花を簪にしてゐます。女兒節と云ふさうです

お姑さまが珍らしからうと歸りは馬車にしました。日本人と見ると「五十錢」と言ひます。眞鍮のランタンを兩側につけてりんりんと澄んだ鈴の音を立てて走ります。

柘榴の花が厚い灰色の土塀の上からのぞいてゐる胡同（露路）の朝をギイツギイツとくつわ蟲の様な音をたててくる水賣りは初夏のさはやかな一情景です。さあつと七色の紅をたててくまれる水が一桶二十錢です。

大きな歷史
小さな歷史

HISTORICAL NEWS INAUGURATED THE NORTH CHINA RAILWAY CO

（マーク）內圈は日の丸、外側の線は五色旗を表はし「日華親善」を、全體は車輪に翼で「躍進」を示す

華北交通株式會社
創立

興亞の胎動を續けた北支蒙疆の交通機關「華北交通株式會社」は四月十七日めでたく誕生した。

三十餘年前、十萬の生靈、二十億の國帑を賭した日露戰役の代償として帝國は南滿洲鐵道一千餘キロを得、畏くも　明治天皇の叡慮に基く國策會社「滿鐵」が創立された。今日全滿一萬キロの鐵道網を完成した事績以上に、日滿一德一心の淵源まさに當時に發せしを顧て深く銘記すべきである。

扨て今度の事變である。蘆溝橋畔一發の銃聲と共に、その滿鐵は一萬の人と技術と滿鐵魂とを北支に送つた。鐵道省亦三千の人と鐵道精神とを提げて馳せ參じた。滿鐵北支事務局がそれであり、爾來二年、硝煙未だ去りやらぬ山野に、鐵道平服の戰士として名實伴ふ先驅をなした。殉難の血にまみれたもの四百名。筆舌に盡し難い困苦缺乏の裡に北支蒙疆の交通網を收修し整備した。

そして、今ここに滿鐵北支事務局は——皮肉にも敵蔣窮餘の所謂四月攻勢のさなかに——華北交通株式會社として生れ變つた。父を死なしめ兄を喪つた出征遺族はじめ全同胞に對し現地から今次事變の一成果を報じ得る喜びは大きい。斯くて八紘一宇の大御心は小さいながら一つの形となり、國策の一つの礎石は斷乎として据ゑられたのである。

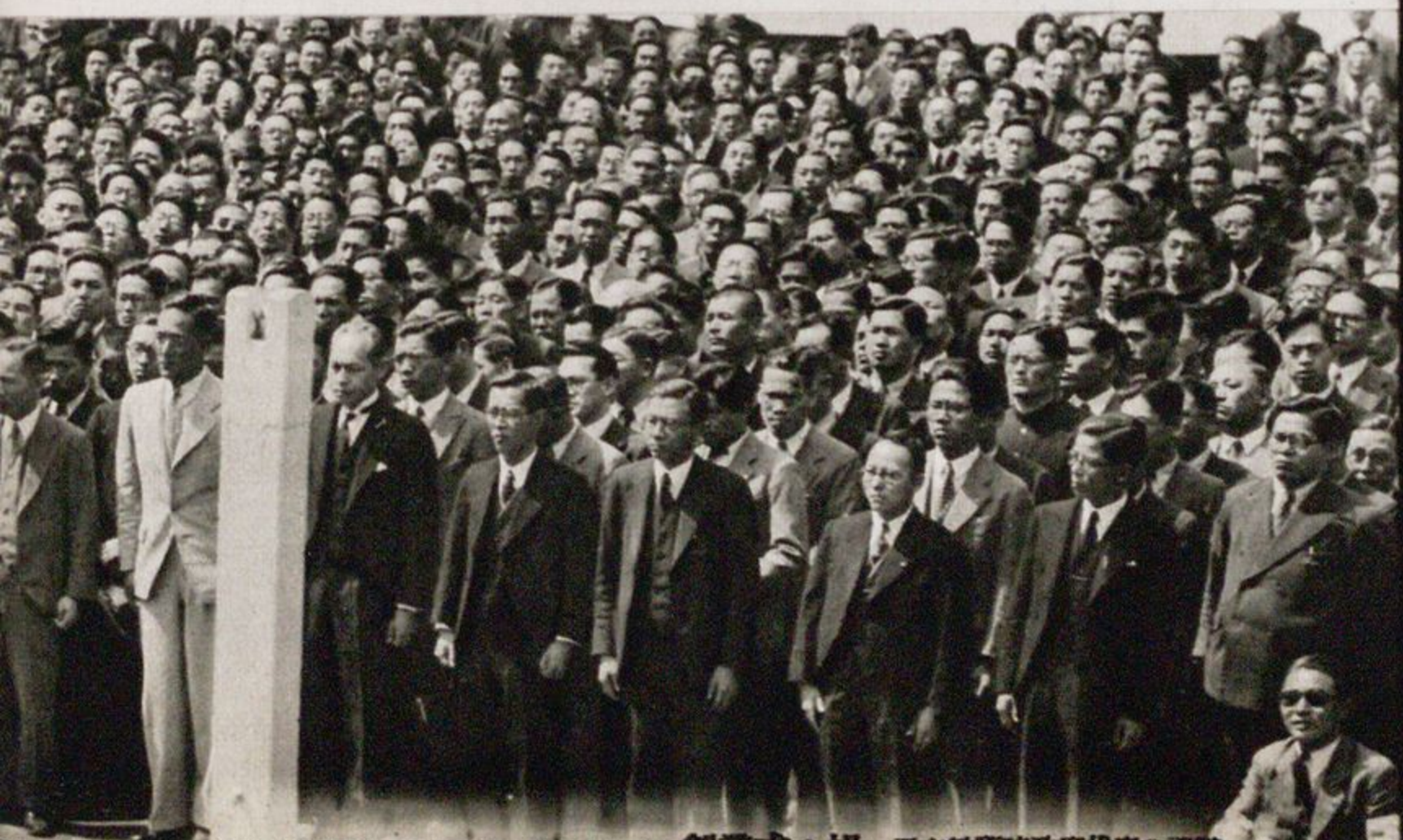
鐵道は經濟の根幹、文化の動脈である。日露戰爭から生れた滿鐵とその業果と、滿洲國の輝やかしい現狀とに想をめぐらし、やがて繰返さるべき將來の歷史に思を致さうではないか。

北支蒙疆の鐵道七千餘キロ、自動車路線一萬キロ及水運の諸業を一手に運營するこの華北交通會社は資本金三億圓（內、一億五千萬圓は北支那開發會社、一億二千萬圓は滿鐵、三千萬圓は中國臨時政府の出資）從事員は邦人二萬、中國舊鐵道員五萬、總員約七萬。中國法人。重役氏名は次の通りである

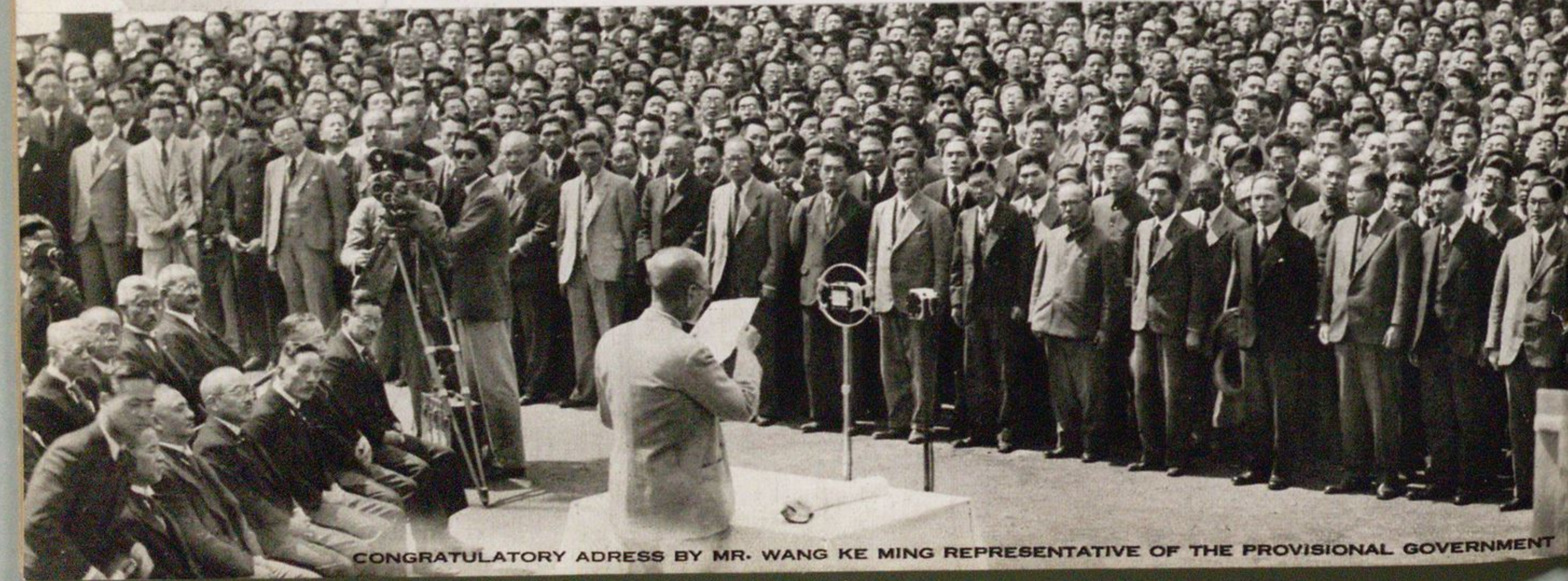
總裁・宇佐美寬爾。副總裁・殷同　後藤悌次。理事・杉廣三郎　周培炳　山口十助　新井堯爾　太田久作　孫瑞林　佐原憲次　陶尙銘。監事・陸夢熊　吉田浩　伊澤道雄

支那の子供達が待ちに待つた兒童節は四月四日北京中央公園社稷壇で開催された。三萬人ばかりの支那兒童に日本兒童も多數參加、日支兒童交驩の朗景に賑つた。

四月六日は植樹節、この日、臨時政府の首腦部連中はじめ手に鍬とつて樹を植ゑ、甦る土に脈々たる新生の氣を盛りあげた。

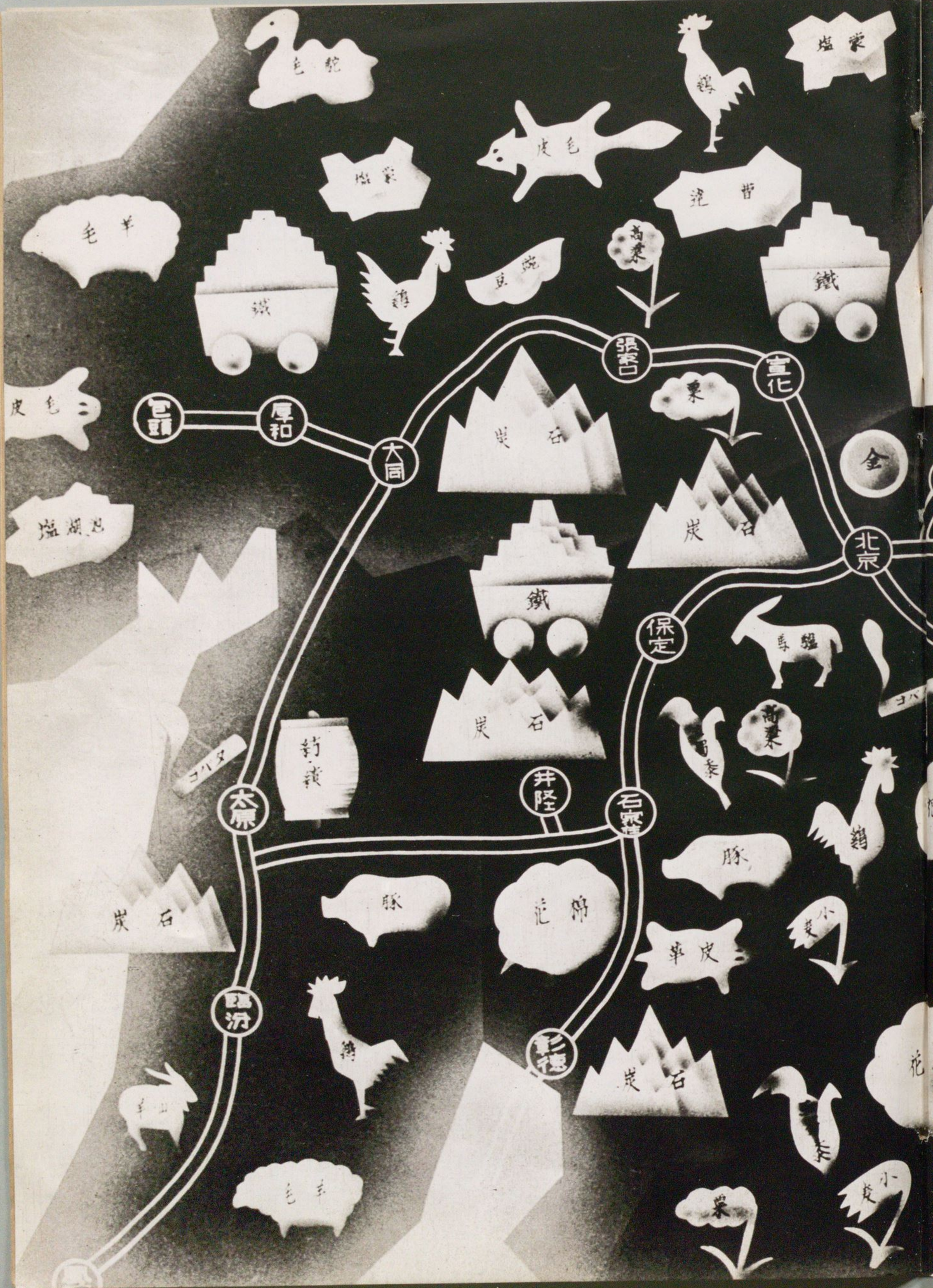
北京——南京の興亞兩首都を結ぶ津浦幹線千十三粁五行程三十三時間半（天津から浦口まで）は四月一日から直通列車が運轉された。北京から浦口から世紀の感激を乘せて處女列車は北へ南へそれぞれ驀進した。

SIGNATORY CEREMONY FOR THE ESTABLISHMENT OF THE N·C·R. CO.……歷史的調印 向側中央大谷北支開發總裁、其手前王克敏臨時政府代表、その隣大村滿鐵總裁、こちら側右より二人目宇佐美華北交通總裁……四月十七日北京中南海勤政殿にて……

……前線社員の匪襲殉難時の書……

中央宇佐美總裁、向つて右後藤、左は殷同副總裁
CENTRE——MR. K. USAMI, PRESIDENT OF THE N·C·R. CO.

CONGRATULATORY ADRESS BY MR. WANG KE MING REPRESENTATIVE OF THE PROVISIONAL GOVERNMENT

北支蒙疆主要物産圖繪

古北口
密雲
金
鐵
金
山海關
黄牛
石炭
灤縣
紡績
開平
塩
天津
塘沽
マッチ
塩
棉
鐵
驢馬
柞蚕
金
鴨
鐵山
濟南
タバコ
博山
マッチ
紡績
皮革
豚
タバコ
青島
棉
石炭
羊毛
鶏
塩

駝毛
蒙塩
鶏
毛皮
蒙塩
曹達
羊毛
鐵
鶏
豌豆
高粱
鐵
張家口
宣化
栗
包頭
厚和
大同
石炭
金
石炭
北京
鐵
保定
驢馬
石炭
紡績
太原
井陘
石家荘
高粱
鶏
豚
石炭
豚
綿花
皮革
小麥
臨汾
彰徳
鶏
石炭
山羊
羊毛
栗
小麥

三
SANKYO
共
疲勞の原因は糖分の分解に依つて生じた乳酸が
體内に蓄積するからであると云はれてゐます
ビタミンB1は乳酸の生成を防止すると共に過剰
の乳酸を分解して疲勞の防止恢復に顯著な奏効
を見ることは實驗諸家の實證するところであり
ます
從つてビタミンB劑の學界に於ける標準品たる
オリザニンは疲勞倦怠感、衰弱感時には勿論諸
種のスポーツ等への應用も推奬されて居ります
末、錠、液、エキス、注射液各種
（說明書進呈）
疲勞恢復に强力ビタミンB劑
オリザニン
（登錄商標）
東京市 日本橋區 室町
三共株式會社

北支に於ける通貨統制

朝倉美奈雄

苟も一國の經濟活動の運行とその發展は通貨制度の統一なくして出來るものではない。今次事變の進展に伴つて一昨年秋北支經濟開發、特に日滿支を打つて一丸とする日滿支ブロック經濟の建設、東亞新秩序建設のスタートが切られるに當り、先づ最初に取上げられた問題は、蔣介石政權の經濟的基礎を爲すところの舊法幣の驅逐と雜券の整理による通貨制度の確立にあつた。

そこで北支に於けるあらゆる建設工作に先立つてこの通貨制度の統一整備に努力が拂はれたのである。昨年三月十日から業務を開始した中國聯合準備銀行（俗に言ふ中聯或は聯銀）を樞軸とする通貨制度が卽ちそれである。

聯銀は公稱資本金五千萬圓（半額拂込）で拂込金の半額一千二百五十萬圓は中國、交通、河北、冀東その他支那側各加盟銀行に割當て、殘りの一千二百五十萬圓は臨時政府の拂込み、この拂込金に充當する爲臨時政府は興銀、正金、鮮銀から圓ノート九百萬圓、現銀三百五十萬圓の融資を受けて居る。

聯銀は北支に於ける唯一の中央銀行で、聯銀券に非ざれば通用力を有たない。その特異性は管理通貨であるといふこと〻、圓に等價でリンクされてゐることで、就中圓に等價でリンクされてゐることは滿洲中銀券の場合と同樣に何時如何なるときに於ても聯銀券一圓は日本の一圓と等價で交換することが出來ることを意味し、また日滿北支の通貨制度の基礎が單一化されたといふことを意味するものである。すなはち圓は日本內地でも滿洲でも北支でも同一の基礎に立ち、繁榮も衰滅も共にするといふことになつたのである。

「北支は聯銀券一色に」といふのが聯銀創設以來の目標で、再度に亙る舊法幣の切下げに續いて創立滿一周年の本年三月十一日以降は舊法幣を始め一切の舊通貨の流通が禁止され、こ〻に聯銀を樞軸とする北支の通貨制度は一應確立されたのである。

しからば、今日既に文字通り「聯銀券一色」に塗りつぶされて居るかといふにさうではない。河北、山東、山西の三省について見ても、治安恢復地帯と共匪地帯とがあつて、治安恢復地帯はすなはち聯銀地帯であり、共匪地帯はすなはち舊法幣地帯をなして居るのが現狀である。これを通貨の流通高から見ても事變前に於ける河北、山東、山西三省の流通高約三億五千萬圓に對し、聯銀券の發行總額は毎月累增を辿つてゐるとは言へ未だ遠く及ばないのであるから、北支三省を聯銀券一色にすることは治安關係は勿論のことながら、單に通貨の數量關係からのみ見ても今後の問題に屬するのである。

聯銀創設以來、臨時政府並に聯銀當局のとつて來た通貨政策の核心は一に聯銀券の强化といふことにあつたのであるが、過去一ケ年餘りの間に舊法幣はどうなつたかといふと、舊法幣は或は奥地に逃避し、或は南方に流れて北支に於ける經濟活動の心臟部である天津租界では昨年十一月頃から急迫せるデフレ現象を示し、外國租界當局の舊法幣缺乏による困惑は想像以上のものがあつた。昨年末英國租界が公租公課納入に聯銀券使用を認め、續いて佛租界もこれを實施するに到つた事實は、如何に流通部面から舊法幣が姿を沒したかを證明するものである。しかしながらこの英佛租界當局の聯銀券による

內容

グラフ

季節の花……1
鹽……3
山西縱貫……7
愛路列車來る……9
ランダルマを逐ふ……11
北京の水……13
天津の水……15
門頭溝の朝……17
働く女……19
けだもの登場……21
邦人日常斷片……23
大きな歷史 小さな歷史……29
北支蒙疆產業地圖……31

よみもの

北支に於ける通貨統制……34
北支蒙疆資源の話……36
可園雜記……38
日支外交の序幕……39
北京の漫描……41
初夏の珍味四題……43
支那芝居雜觀……44
ほくし・ふじん・さろん……45
ペキン・コドモ・クラブ……46
傳書鳩……47
北京ごよみ（六月）……49

公租公課納入容認を以つて、直ちに外國側の聯銀券支持と解するものがあるとしたら、聊か認識不足と言はなければならない。あらゆる手段を以て聯銀の政策を妨害して來た彼等が、一朝にして協力的態度に轉ずることは有り得べからざることで、彼等の採つた措置は窮餘の策、いはゆる「泣きの涙」といふことに外ならないからである。

今日に於ては天津外國租界でたゞ一枚の舊法幣さへも手に入らぬ狀態となり、皮肉にも聯銀券を排斥しようとした租界が逆に聯銀券一色に塗りつぶされてゐる。かくの如く流通過程から舊法幣が姿を消したことはまさしく當然のことであるが、これを以て直ちに聯銀券の勝利と片づけてしまふことは大きな錯覺である。すなはち、聯銀創設以來舊法幣が奥地や南方へ逃避したのは舊法幣の信用が失墜したためではなく逆に舊法幣を信用し、愛着を感ずる爲であつたと見る方が適切である。

なるほど、臨時政府統治下にあつては舊法幣は何時切下げられるか判らない、また何時流通禁止になるか判らないといふ不安があるのだが、それは、臨時政府統治下といふ地域的限界がある。だから、舊法幣を信頼する者はあらゆる手段をつくして安全な地域に退藏するのである。

表面的には日本と協力するやうな顏をしてゐても腹の中に何か割り切れないものを持つて居る支那人であるならば、その支那人は必ず舊法幣に對して限りない愛着を持つてゐるのである。舊法幣が流通部面から姿を消した最大の理由はこの愛着の念がなさしめた退藏であると言へよう。天津の租界で少しでも金に餘裕のある者は舊法幣は信託會社保護預りにしたり、或は自分の金庫の奥深く大事にしまひ込んでおいて、商賣その他日常の出し入れには聯銀券を以てするといふ事實さへある。舊法幣なんか後生大事に持つて居てもそれが反古に等しいものであるといふのは日本人及び聯銀を支持する支那人の考へ方であつて、舊法幣に愛着を感ずる類の支那人は必ず舊法幣の時代が近き將來に復活すると信じ切つてゐるのである。

更に共匪地帶に入ると全く舊法幣の天下であつて、聯銀券では物を賣らない。だからさういふ地帶の物資はそれが棉花であらうと落花生であらうと買ふことが出來ないといふことになる。そこで聯銀の通貨政策の一つの大きな仕事は聯銀地帶をヂリ／＼と押し擴めるといふことにある。討伐、宣撫その他の治安工作によつて治安が恢復すればその地域は聯銀券地帶となるのであるから、この聯銀券地帶の擴大といふことにあらゆる努力が拂はれて居る。

聯銀券を强化するためにはその流通地域を擴大して北支から舊法幣（共匪地帶）をして全く跡を絶たしむるといふことの外に更に、聯銀券を外貨と結びつけ貿易通貨としての機能を發揮させることがなされなければならない。

これが聯銀の政策の當面の重要な課題となつて居る。聯銀券では外國から物を買へないといふのであつては、それは完全なる通貨とは言へないのである。

北支に於ける經濟活動の運行を圓滑ならしめ、經濟開發の發展を期するためには聯銀券で自由に外國から物を買へる機能を附與しなければならない。聯銀が三月十一日以來實施して居る輸移出爲替集中政策は卽ちこの目的を達成せんがためのもので、特定物資十二品目海外及び中南支向け輸移出を行はんとする場合には、輸移出業者は對英一志二片基準を以て爲替を取組み、この爲替を取組んだ爲替銀行はこれに相當する外貨を聯銀に賣却しなければ該物資の海關通過を許可されないことになつて居る。すなはち一志二片で輸出爲替を取組み、これを聯銀に賣却しなければ輸出は許可されないのである。かくの如くして集中した外貨を聯銀は輸入業者に拂ひ下げる仕組みとなつて居るので、聯銀に外貨が集中されゝば何時でも輸入業者は聯銀券で外國物資購入のための外貨を買ひ取ることが出來るのである。これが卽ち聯銀券が貿易通貨としての機能を發揮することであつて、この外貨集中政策は顯著な實績を示して居るが、こゝに哀れを止めたのは外國銀行である。天津租界に蟠居して、治外法權を楯に聯銀の政策に對してこと／＼に妨害工作を行つて來た手前もあつて、一志二片による輸出爲替取組みを彼等銀行は肯じない。彼等にとつては商賣が成立たうと成立つまいと問題ではないのである。ところが、外國人貿易商はさうは行かぬ、輸出をしなければ商賣はあがつたりになるから一志二片でも結構とばかりに、正金で爲替を取組むといふ未曾有の現象が生じて來た。

外國銀行が飽く迄非協力的態度を持續するならば、それは結果に於て彼等自ら墓穴を掘ることであり、同時に聯銀券の地步が確立されるばかりである。

北支蒙疆 資源の話

小島徳三

近頃雑誌や新聞に資源の開發といふことを見ますが、これは日本と滿洲と支那とが一つの經濟單位になつて、今迄外國から仰いでゐた物資を、日滿支の間で自給自足して、お互の共存共榮を圖らうといふ目的なのであります。そのためには各地に埋藏されてゐる礦産物の採掘を奨勵して礦工業を盛んにしたり、各地域の氣候風土に適した産物を改良發達させてその増産を圖らねばなりません。ところで北支にどんな資源があるか…といふ問題です。

*

まづ第一に指を折らねばならぬものに石炭があります。一般に支那人は西暦紀元前から石炭を使用したと言はれてゐますが、支那の文獻に初めて石炭が現はれたのは紀元四二七年に雷次宗と云ふ人が書いた「予章記」です。この中には、葛郷と云ふ地方に二百畝の「石炭」があつて料理の燃料に用ゐられたとあります。其の後各地に埋藏地が發見され石炭の使用は頗る發達しました。最近映畫でおなじみのマルコポーロが支那に渡つたのは十三世紀の後期のことでしたが、彼は石炭について「支那には一種の黒い石が山の中に脈をなしてゐる。それを掘出して點火すれば木炭の樣に燃え、薪よりも火持ちが良い。一晩中燃えてゐる。而もこの石は極めて大量に産出され、極めて安價に入手出來る」と彼の東洋旅行記に書いて居ります。

又一八七〇年ドイツの地質學者リヒトホーヘンが山西の諸地方を踏査し、山西一省で一兆二千六百億トンの石炭が埋藏され、世界にあるいかなる有名炭田も山西省の炭田には匹敵することが出來まいと詠嘆するが如く讃辭を呈して世界の耳目を聳動せしめました。この報告は後になつて外國學者の種々な調査の結果その過大評價であることを指摘され、修正されたのでありますが當時にあつてはマルコポーロ以來の「物語に聞く東洋の祕庫」を現實に裏書したものとして著しく列强の注意を喚起し列國の支那への進出を拍車づけるモメントになつてゐます。

北支の石炭埋藏量は、概算一千三百億トンと稱され、これを日本內地の埋藏量百六十億トンに較べますと約十倍弱に當ります。我國の最近における石炭消費量は七千萬トンでありまして、假りに毎年一億トンを消費するとしても、今後一千三百年間は石炭の心配をする必要はない、と云ふ勘定になります。又山西一省をもつてしても、一千二百億トン。イギリスの一千四百億トンに匹敵するほどの豐富さであり省內至る處にその埋藏が見られます。

この老大な埋藏量を有してゐながら産額はまことに貧弱で年産千四百餘萬トンに過ぎません。これは石炭の埋藏地が大抵海岸地方でなくて、奥地の諸省にあるためであります。石炭を運搬するのに鐵道もなく水運の便もないので、わづか二百斤や三百斤の石炭をラクダや馬の脊に積んで、山の奥から幾日もかゝつて積み出すのであります。それで鑛山元ではたゞ見たいに安いのですが、遠くに離れゝば離れるほど値上りします。だから礦山の極めて近くに住む人々には利益になるが、遠い處の人には石炭は購ふことの出來ない贅澤品になつて仕舞ひます。この樣な輸送の困難に加へてその採掘技術が甚だ幼稚であることも事實です。例へば支那の鑛夫達は地下水が湧き上つてくるとその氾濫に抗し兼ねて礦區を放棄したり、又はその地下水を排するにしても牛皮の粗袋や、柳枝の編籠で一人一人手送りに坑の外側の溝へ汲み出すのであります。この樣な原始的方法が山西の各地では今でも行はれてゐます。

今日、石炭の過少は一國の富と力のバロメーターであり、石炭のない國はその發展が制限されると云はれてゐます。無盡藏に横たはる北支の石炭の開發は産業日本の目下の急務であると云はなくてはなりません。ところでどんな炭田がその開發の對象になつてゐるかと云ひますと、山西省の大同炭田を始めとして河北省の開灤炭、井陘炭、山西省の平孟、山東省の中興炭等が注目されてゐます。

*

現在日本では郵便ポストの鐵が陶器にかへられたり、廢鐵の獻納が宣傳されたりして居りますが、鐵は石炭と共に日本にとつてまことに重要な資源であり、その鐵礦資源を獲得することは非常時日本における目下の急務であります。昭和十年度における日本の製鐵界が消化した鐵礦石は四百五萬トンでありますが、その中の八四％は之を輸入に仰いでゐるのであります。我國の

生産力擴充計畫によれば五、六年後には消費量一千二百萬トンと云ふ驚異的數字を示すものと推量されてゐます。

ところでこの鐵礦石を容易に且つ速かに安價に供給する地區を求めると、先づ內地、朝鮮、滿洲、支那、南洋の順となりますが、前二者は埋藏量の僅少、礦石所在地の邊鄙、又は貧礦等の諸理由で增產增掘の難點が横たはつてゐる外に鮮滿の如く其の地に鎔鑛爐を設備してゐるところからは內地への供給は期待することは出來ません。此點から日本の要求を滿して吳れるのは何と謂つても支那と南洋だと云ふことになります。

北支の鐵の埋藏量は、石炭よりは遙かに少ないのですが、大規模な製鐵工業を起すに充分であると云はれてゐます。正確な統計はないが一億四千八百萬トンで、尙山西省の各地に埋藏地が發見され、相當な埋藏量を有してゐると稱されてゐます。

支那における鐵礦の利用は極めて古い歷史を有し、鐵器の製作も周時代に始まり、鐵に稅を課することも春秋、戰國時代、卽ち鐵器時代の開始と共に積極的に行はれ、歷代王朝の有力な財源となつてゐました。漢の時代には、支那の中央のみでなく、邊境地方にも鎔鑛爐があり多量の鐵を產して居たのであります。

こゝに特筆すべきことは支那の鐵が中央アジアを通つてイタリアのローマに入つてゐたことであります。當時各國からローマに入つて來る鐵の中で支那の鐵が最良のものであつたと云はれてゐます。このやうに歐洲にまで名を轟かせた支那の製鐵が、無能で貪慾な封建支那の社會經濟の缺陷のために、漢時代の鎔鑛爐の跡さへないほど衰微したことは極めて殘念であります。

現在北支の鐵礦中で第一に注目されるものに察哈爾省の龍烟鐵礦があります。ここの埋藏量は九千萬トンと稱される大礦山で、北支埋藏量の七〇%を占めてゐるのであります。平均鐵分は五六%で質、量共に非常に優秀な鐵礦であります。こゝの採掘は一九一七年陸宗輿公が自己の名義で、支那の政府に採掘權を出願したのに始まつてゐます。その後資本金五百萬元を以つて中國官商合辦として龍烟鐵礦公司が成立し、順調なる成績を擧げつゝあつたのですが、その後打續く支那の軍閥鬪爭に祟られて經營不振を續け、その上歐洲大戰後の鐵價暴落に災ひされ營業中止の止むなきに至つたのであります。

しかし今次の支那事變は龍烟鐵礦に一大轉換をもたらし、現在では蒙疆聯合委員會の管理下に興中公司が處理にあたり、積極的な採礦を開始してゐます。同礦の採掘目標は年產七十萬トンで、そのうち四十五萬トンを日本へ輸出しようとする方針です。又火入れも行はず放置されてあつた同礦の精煉所たる石景山製鐵所も「建設日本」の手によつて十幾年振りに世紀の煙を吹き出しました。同所は北京から僅かに十九キロの地點にありまして、その傍を永定河の豐富な水が流れ、山頂には有名なラマ寺があります。附近には、西山、玉泉山、萬壽山と北京近郊の景勝地をあつめ一聯の遊覽コースをもなしてゐます。

*

「裸で道中がなるものか」といふ俗諺の樣に、如何に精銳なる兵器があつたところで、裸體で戰爭は出來ないものです。ところで軍隊の用ゐる被服として、何が一番適してゐるかと云ひますと、強靱で保溫力が強く、雨水を彈く性質のある羊毛位適したものは今のところありません。

日本における最近の羊毛消費高を見ますと、三億ポンドの多額に上つてゐます。これを、頭數に割當てて見ますと、一頭八ポンド平均として驚くなかれ三千五百萬頭の緬羊を必要とするのです。然るに國內の現存數は僅か內鮮合せて三萬五千頭に過ぎないほどの貧弱さであります。

北支蒙疆全體の羊毛は大ざつぱに見積つて約三千萬斤見當で全支產額の約七〇%に當つてゐます。以前は外蒙から隨分多量の羊毛が沙漠を通つて張家口に移出されたが、いまはソ聯軍の防寒具を作るために來なくなりました。

また青寧地方からは、四肢もそのまゝの羊の皮に羊毛を詰め、その腹の縫ひ口を上に幾つも〱繋いだ皮の筏を作り、これに五、六人もが乘つて黃河を下つて、包頭の市場へ賣りに來るのです。毎年この季節になりますと、包頭の街は羊毛賣を待ちかまへる女達で賑ひます。これらの羊毛は事變前には天津に出て、その大部分はアメリカへ輸出されてゐました。

然しながら北支の羊毛は原始的な飼育を行つてゐる關係から非常にその素質が惡く、產毛量も飼育頭數に比して少ないのでありますが、これは改良によつて、どんどん向上するだらうと思はれます。昭和十三年度には日本の商人の手によつて、約一千萬斤が日本に輸出されました。何はともあれ北支羊毛の前途には大きな期待がもてます。

可園雜記

加藤新吉

可園は北京西直門外に在る名苑である。その藤花は北京名物の一つ。こゝに云ふ可園は地安門―前門に對する後門―に近く鼓樓に近い別の可園、前者に比して甚だ小さくはあるが、それでも前清大官の邸宅、民國になつては曹錕や馮國璋が住み、今はさる日本人が借りて家屋の拂底に惱む日本人に分割貸與して居る。名も日本風に改めるつもりかつひ先頃まで常盤園といふ料理屋みたいな門燈が出てゐた。

＊

家は南面、表門の横の長屋は門番や使用人の住んだところ、中門までの間に狹い院子（庭）がある。中門を入ると左右に各一棟、突當りに一棟、此三棟で四角な院子を圍む、謂はゞ之が住宅建築の一單位である。北京住宅の原則としてすべて平家、屋根は黑瓦、木材に丹青を塗り、院子にも室内にも磚（敷瓦）を敷き詰める。

支那住宅も大邸宅になると東西及正面の三棟を以て院子を圍む住宅の單位は奥へ奥へと幾重にも連續し、或は其式形を分離し改變して廻廊や小門が之を繫いでゐる。可園も其部類に屬して幾つもの院子を圍む十幾棟の他に、馮國璋が建てたといふ獨立二階建の洋館があり、此洋館と舊式平家との間が廣い庭園になつてゐる。

庭の三分の一は築山と泉水である。築山は無暗に石を組上げたもの、北京でよく見るもの、日本人には解らない趣味である。平地の建物を結ぶ廻廊はこの山の上まで伸びて二つの亭に達する。一は僅か二三人を坐せしめる六角亭であるが、他の一は優に二三十人を容れるに足る堂々たる建築である。

此庭は磚を敷かず、通路には無數の小石を集めて花模樣が織出してある。其花模樣を踏んで行くと築山の下の曲りくねつた洞門を拔けて築山の向の建物へ出る。この洞門なるものがまた支那人の嗜好である。

＊

北京は森の都、秋、景山や城壁や北京飯店の屋上に立つと、城壁に圍まれた街は黃葉で埋め盡されて居る。什刹海から北海、中海、南海へかけて爓る春の水は、楊柳の薄綠に緣とられてゐる。夏、鐘樓や鼓樓は深綠の樹海の上に浮んでゐる。

北京はさうしたところである。何處の庭にも樹がある。磚を敷いた院子で若し樹がないとすれば、それは植木鉢金魚鉢、睡蓮の鉢を並べる爲だ。可園は門前も庭も築山も槐、それは二人がかりでも抱きかゝへられぬ程の大木である。或は明朝の沒落と淸朝の興起とを見た眼で今日を見、日本人の生活を珍らしがつてゐるのかも知れない。

＊

杏、海棠、丁香（ライラツク、白と紫とある）牡丹、藤、何れも支那人の愛好する春の花卉、牡丹と藤とは五月其他は四月初から半へかけて開く。可園の海棠は樹齡百年を越すと思はれるもの二株、株から林立して屋根を拔く枝に淡紅の花が咲き亂れる。

私は去年の秋からこの可園の一角を借りて住んでゐる。晩秋、槐の葉が雨の如く降り注いだ。風の夜は深山幽谷に住む想がした。其頃、朝夕何百といふ鳥が其梢に休んでは野良へ塒へと發つて行つた。この頃、頰白、喜雀、啄木鳥、其他名を知らぬ鳥が日每逝く春の歌を奏でてゐる。（四月十八日）

日支外交の序幕

玫瑰樓主人

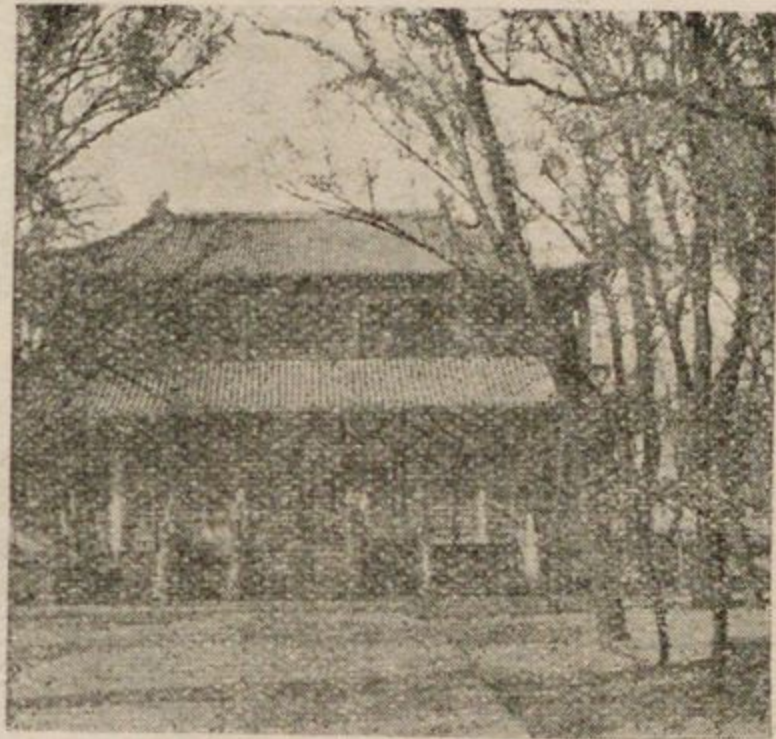
事變二周年近く日本は既に東亞の盟主として大陸に巨歩を進め、今や臨時政府を中心に日支一體東亞新秩序建設の大旆は動いてゐる。この際日支外交の端緒に溯つて今日あるに思を致すのも無駄ではあるまい。と云ふのは、現在北京の眞中に、しかも閙々たる邦人に忘られたかの如く由緒ある建物が眠つてゐるのである。

明治三年と云へば維新の大業成つてまだ國内諸般の改革に忙殺された時分であるが、この時既に政府は日支條約締結の豫備交渉を始めた。この最初の折衝に渡支したのは時の外務權大丞柳原前光で、權少丞花房義質、權少記鄭永寧が隨行、七月二十九日東京を出發し上海を經て天津に到着した。相手は直隷總督李鴻章、兩江總督曾國藩。當時清朝は日本など眼中になく且つ英佛兩勢力に扼せられてゐた折柄正面切つて相手にはしなかつたのである。

先づ修好の提議書を手交して態よく斷られた柳原は、これではならじと腰を据ゑて、歐洲諸國漸く日支を壓迫せんとする時節柄速かに一致協力して當るべきを力說したところ、兩所又大いに意動いてどうやら下交渉は成功したのである。

かくて支那側に締約交渉の意志あること明かになつたので、翌明治四年四月（清國穆宗の同治十年）大藏卿伊達宗城を欽差大臣に任命派遣することとなつた。前年瀨踏みに行つた柳原は副使となつて以下一行二十名。一路天津に到着するや全權大臣李鴻章に渡りをつけて山西會館に會見、直ちに交渉に取かかつた。ところが我方は原則として歐米諸國と同一條件の下に締結する意志であるから議はなかなかまとまらず停頓旬日に及んだ。漸延七月に入つて更に會議を開き審議を重ねた結果、七月末に至つて漸く修好條約十八條、通商章程三十三條の成立を見、同月二十九日伊達、李の兩全權によつて署名調印を濟したのである。

この條約によつて從來日本は長崎一港だけで日支通商の糸をつないでゐたのが、更に横濱、函館、大阪、神戸、新潟、佐渡、築地の七箇所を開港場となし、支那側も天津、牛莊、芝罘、上海、鎭江、寧波、九江、漢口、廣州の九港を開放した。

さて全權一行の歸朝するや政府部内に異論をなす者あり、十一月外務卿岩倉に代つて副島就任と同時に早くも不平等條約、就中領事裁判權の不合理を指摘し、之が改訂に意を用ふることにした。

昔ながらの紫光閣

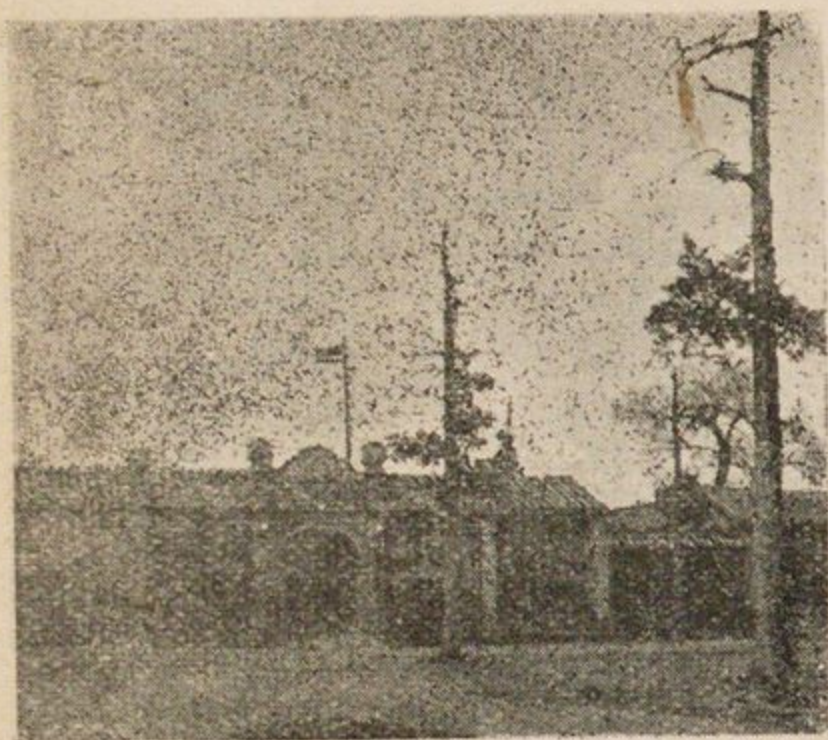
明治五年三月柳原大丞を三度支那に派遣して批准交換に先だち二三修正の點を李鴻章に交渉させたが、李は言を左右にして應ぜず空しく歸國した。

時偶〻琉球事件の紛議が持上り、臺灣の生蕃が邦人を殺戮するなど日支關係は次第に重大となり、修好條約も早く成文とするの必要に迫られて來た。折から清國皇帝が大婚の禮を擧ぐるの儀を決したので、慶賀使節を派遣すべく、特に副島外務卿自ら赴清、問題解決の任に當る事となつたのである。

六年二月二十八日特命全權大使として差遣を仰付かつた副島卿は、三月十二日顧問リセンドル（米人）以下隨員を從へ軍艦龍驤、筑波に分乘、勇躍横濱を出帆した。途中十九日鹿兒島に寄港して參議西鄕隆盛と諸般の打合せをなし、上海、芝罘を經て四月二十日天津に到着した。この時李鴻章は換約大臣として二十四日副島、李の初會見を行ひ我方國書の副本を上呈した。次いで三十日午前十時山西會館に兩國全權一行會同して正式に批准書の交換を終つたのである。

× ×

批准交換を終へた大使一行は五月五日天津を出發して七日北京に到着、王府井東方裏手氷渣胡同の賢良寺に館した（この寺は清の雍正十二年所建、乾隆二十年ここに移し建てた名刹。義和團事件の和議に際しては辦公所に充てられたさうだ。筆者等訪問するに先代の老僧既に亡く殘念であるが、前庭の靜寂に立つて感慨を深うした）。

さて五月十四日大使は柳原を總理衙門に遣はし國書の副本を手交させ謁見捧呈の日を打合したところ、恭親王病

中のため全快を待つて回答するとの返事である。但し清廷に於ける外國使臣謁見の儀禮についてはなかなかやかましく如何な先進國の使臣も未だ嘗て謁見した者がないと云ふ當時の狀態で、支那政府は由來外國を夷狄視する慣例に馴染んでゐたものだ。

ここに乘込んだ副島卿はまづ大使たる格式を各國公使に認めさせ、やをら支那の頑迷を叩き破りにかかつたが要領を得ない。つまりこの間、副島卿が謁見について國際慣例通り三鞠躬の禮を主張すれば、彼は五鞠躬を通さうとし、又我は大使として眞先に單獨謁見を主張すれば、彼は各國公使に氣兼ねして、欽差は同じ欽差で一等も二等もないと突張つたのである。

時應宮址（今は兵舍）

とかくするうちに六月一日、病癒えた恭親王は諸大臣を引具して大使を訪問して文書一通を呈示した。曰く、貴國とはもと同文の國である。中國の禮節を照行してもよいか、返事を伺ひたい。つまり跪拜するかどうかと云ふので、五鞠躬放棄論に一矢を酬いた駈引である。大使怫然として色をなし「現今萬國は三尺の童子も通例を知る。余は君主に代つて聘問する者、焉ぞ貴王と等しく跪拜し得んや」と一喝した。この劍幕には恭親王も恐れをなし應否は文書で願ふと云つてそこそこに引揚げ、翌日から文書戰を展開した。

相變らず双方我意を張り通しいつかな埒明くとも見えなかつたが、遂に六月七日双方往復文書を返戻して一切を白紙に還し改めて同日會見となし、大使だけは時刻を別にしてと云ふ條件付で承諾した。

然るにこの内約に對して一二の公使より抗議が出て十六日に至るや俄然支那側は寢返りを打つて、各國公使を第一班とし大使を第二班にすると云ひ出した。大使は事の意外に呆れ早速抗議を申入れ詰問したが効果がない。遂に意を決して二十日朝謁見を謝絶して歸朝する旨を傳へ、更に翌日生蕃討伐を通告せしめ、隨員一同旅裝の仕度にとりかかつた。

驚いたのは恭親王である。早速同日交渉再開を周旋させ、翌六月二十四日大使の單獨先順と三鞠躬の儀禮を承認した。かくて二十九日を以て謁見の事に決し、一瀉千里ここに四旬に亙る交渉も終結したのである。

この日、謁見式の概略を見るに

「二十九日午前四時大使は鄭を率ゐて轎行、六時西安門內天元閣に暫く憩ふ。やがて接待に擁せられて福華門外に下轎、門に入る者大使と鄭二人のみ。迎へられて時應宮に入り憩座す。滿卓の茶菓精巧を極め數十品なり。各國公使及譯官は福華門外の天主堂に集り陸續と來る。七時側近大使を導いて紫光閣傍の行幄に至つて伺候すれば各國公使之に續く。帝八時宮を出で九時紫光閣に御す。二大臣、大使、鄭を引いて閣の左階より昇り、左門より進む……（以下略）」

かくて副島大使は年來各國公使の手古摺つた謁見の儀禮を見事解決し、先進各國の感謝を受けて退下した。

この歷史的謁見の式場紫光閣が昔のままに殘つてゐる。場所は中南海公園で入口の福華門の扁額もそのままだ。ただ時應宮だけが現在支那側軍の兵舍にあてられ、紫光閣の扉は固く鎖ぢ內部は既に荒るるに委せたるを見て筆者感無量、低徊これを久しうした。

北京の漫描

服部亮英

若い支那の美術學生達と寫生に見物を兼ねて香山に出掛けた。三月下旬の土曜日だつた。バスは萬壽山行の客で滿員だつた。沿道の柳は黄色く垂れて春風駘蕩、久々で郊外氣分に浮き立つて、日の丸行進曲や愛國行進曲が日本人の間に合唱されてゐた。事變前に長江流域を旅行した頃の萬縣、重慶、長沙、南嶽、廬山等で抗日的、青龍刀におびえた時と變つて今日の喜びは皇軍の威力で、ただ胸を衝く感謝あるのみだ。頤和園前でガラリと空いた座席に腰を下ろし玉泉山を迂回して香山に着いた。皆で揃つて驢馬に乗り、咲き初めた桃林の間を駈けづり廻る。特に我が乘る馬のハリキリ方と云つたら、凄まじいもので、忘國的嘶きと共にポカポカ駈け出して、あぶなく振り落されさうだ。先頭に立つ王君の牝馬に戀慕するの情は如何に手綱を引きしめても止め様もない。笑聲は全山にこだまして春滿點だ。踊り場や樹上のキヤフエーは無いが巴里郊外のロバンソンを思ひ出す。畫題は瑠璃塔の寫生。日支合作の宿に携帶の日本酒、碧雲寺から臥佛寺と移つて行く南船北馬の文字通り北支の旅は馬に限ると思はせた。……

一日二日の旅、一年五年、人生も旅にちがひはないが去年東都の花を後に北支に來て早一年、旅は感覺を新にするだけでも藝術家には特に必要である。しかしいつもジプシーの樣に次から次へ慌しい旅でもあるまい。此度の旅は大陸に骨を埋める樣な落ちついた事になるかも知れない。文化戰士？　それだつたら先づ自らの持つて居る優越感を捨てる事だ。長城と石佛と紫禁城、これを見たゞけで人類の偉大な力に驚かされた。郭公の鳴く森の都。赤い壁と青い服の男女。隆福寺、護國寺、白塔寺の毎月の市、曉の市、古美術、工藝品、中秋の餅、舊正月の賑ひ、喇嘛祭、支那芝居、驚きのまだ見ぬ世界はいくらもあらう。

去年の五月北京へ來たときは古都を汚す者は日本人だと云ふ感じがした。ある人にこれを話すと、早速改善させませうとの事だつた。二三日すると赤い門や壁に貼られた旅館、おでん屋、カフエー等のビラが無くなつた。新聞には都市美の事が書き立てられた。警察から看板が制定されてほつとした。

北京美人と大和撫子

中央、中南海、北海等を散歩してゐ

る女性を見るとあの前髪と後に雀の巣をつけた樣なパーマネントに輕快な上衣を着た或は腕をあらはに美しい人體の長い曲線を包むあの魅力には誰れも異議を申立てる者はなからう。おつとりと氣高い感じの女性を見たときは、アベツクでほんの一時でもよい、散歩がして見たい樣な氣もする。大和撫子も銀ブラに出て來るのを見ると理智的な近代女性な明敏さと健康美を具へたしかも感覺的瞳をもつてアミーと話し會つて居る圖等を見ると到底北京美人の比ではない。ところが北京で見る日本女性は鶴に對する五位鷺位にしか見えぬのはどうした事であらう。小柄で意地惡想な……こんな事を云ふと叱られるかも知れんが內的教養は外面に現はれる。自分が面白半分に散步するなら豚を曳いてアンサンブルをやつたらと思ふ。尤も銀座で熊をつれて散步した人が早速警察から止められた事もあつたが。指導的立場とか優越感とか云つたものは先づ脫ぐこと。

戀愛監督

東安市場のある料理店へ行くと鯉魚の背鰭が何疋も〳〵も巧みにしばつて泳がせてある。來客によつて一疋でも二疋でも直ぐ引つぱり上げて料理の材料になる事は云ふ迄もないが、なやましき春ともなれば、男女の關係もめざましく現はれて來る。我等の學校のお隣りには女子職業學校と云ふのがあつて垣一重隔てたこちらに寄宿生が七八人頑張つて居る。それ等の學生が外へ出てカンヴアスを張つてゐると向ふ側

では編物の針でサインをする。張りと針、男と女がはり合つて居る。玆に戀愛が成立つたりでもしては東安市場の鯉の様に引き上げるより外あるまいと生徒監は眼を光らせて居る。此の二つの學校はもと一つであつたのが二校に分れて以來闘爭のたえ間が無かつたさうであるが、現在日本人經營になつてから双方で仲よしになつて和平的色彩の見えて來た事は悦ばしい現象の一つである。

國劇で見た島田髷

蘇小女の墓は、杭州西湖の邊りで見た。身は藝者でも婦人の鏡として今も猶國劇として謳はれて居る……。その頃の一人の學生に純情をさゝげて成功させた。裁判官の前に今は罪人として立つたが結局無罪を宣告されると云ふ梗概だが、日本の歌舞伎の隈取も源泉は支那だらうが、蘇小女の髪の髷が日本の藝者のつぶし島田にそつくりなので、これも元は支那だと思はせた。一寸古い處は皆支那から出て居る。最近の文化は皆西歐のそれを取り入れて居る。日本はテンポが急だから、日本的とは何か、日本人にしても日本を知らない人が多い様だ。支那人の訝かるも無理からぬ事だと思つた。

掘り出し物

北京の古玩は大抵イミテーションと云つていゝ位贋造品が並んでゐる。舊正月の琉璃廠の書畫骨董の市も大したものだがどうせ好いものは我等の手では動かないのでげてものあさりをやつてゐる。北京に居る者の樂しみの一つだらう。朝むつくり起きて人つ子の餘り通らない靜かな町を德勝門大街に出て什刹後海の邊りに毎朝、曉市と云ふのがあつて、多等は朝まだ暗い中に始まるのださうだが、春から夏の朝の散歩には最も愉快であらう。巴里のクリニヤンクールの蚤の市だ。何でも出てくる。支那人ばかりで商賣人が骨董品を買ひ出しに來るのも此處である。天橋にもあるさうだ。小盜兒市場も同じで昨夜盜まれたものが今朝の市場に出て居ると云ふ。迂濶に物を買つたら、自分の物だつた等の喜劇もあるとか。兎に角喰ふか喰はれるか、人間が生きんが爲に此處に集つて曉の一時を此の市場で活路を求めんとするのである。此處には場所柄だけに小錢の交換所が到る處にあつて一元換へても、手に餘る札束となる。

勘定が何大枚とか一百二十枚とか云ふ細かいので、自分の様な數理に缺けた者は向うの云つてる値段よりも高價につけて、買つた後で損をした事に氣づいて頭をかく。

ある曲り角で盲人が杖でさぐつて行かうとした處に子供がウンチをして居るのを見た。新參者の自分に與へられた漫畫だ。今に糞でもつかむのぢやなからうか。

× × ×

鳩笛

初夏の珍味四題

黄子明

酸梅湯

漢籍、文具、骨董の街としてどなたも御存知の北京の琉璃廠に、信遠齋といふ雅致ゆたかな古風な店がある。

夏、この信遠齋の前をお通りになつたらよく氣をつけてお店を御覧じろ。立派な紳士淑女たちが、立ちながら小型な茶碗で、いかにも旨さうに何かを啜つてゐるのが眼に映るであらう。

それが北京獨特の夏の珍味飲料、酸梅湯なのだ。そしてこの信遠齋の酸梅湯は、實に北京隨一といはれる名物で、その一杯を味はんがために、遠くからわざ〳〵自動車を馳つて來るほど名高いものであるのだ。

干梅と氷砂糖と三盆白、それに香料として木犀の花（桂花）を加へてとろ火で煮つめ、一應ジャムのやうに拵へあげてから、更にそれを適宜に薄めてアイスボックスで冷したものが酸梅湯で、一口にいへば甘酸つぱいものだが何ともいへぬ風味て、止め度なく滲み出る汗が、その一杯でピタリと止り、そしてその日一日渇を覺えない。

夏の飲み物は、味ひはもとよりながら、また能く渇を止めるものであつて欲しい。酸梅湯はこの點に於て申分のない絶好飲料で、日本人でこの珍味を御存知の方は極めて尠い。

絲瓜

秋口の胡瓜をタテに細くさき、それを日蔭干しにしたのを、青物の乏しくなつた冬に、五分切りにしてお酢のものにつくると、さてもおつな味であるが、この干胡瓜はお安くないのでヘチマを代用する。胡瓜と異つた別の風味に富んでゐる。

日本では酢のもの以外には、めつたに胡瓜を煮物料理に使はないし、殊にヘチマに至つてはほとんど喰べないといつていゝ。ところが支那では、ヘチマ料理は夏の料理のしやれたものとされ舌鼓を打つに値する珍味の一つである。ヘチマ料理の見本として「絲瓜好湯」を御紹介してみる。

ヘチマの四五寸位の若いやつを薄く皮をむき、斜に三四切れぐらゐに切りそれに火腿（ハム）を二三切れ入れ、牛乳で煮る。白い乳のお汁の中に、緑のヘチマと紅いハムの色の配合は、見た眼にも感じがよく、ドロリと舌の上で溶けるやうなヘチマの味はまた格別だ。

このヘチマ料理に感嘆した友人が「ヘチマと牛乳のお料理を喰べたら、さぞ皮膚が細やかに艶がよくなることだらう。なるほど北京婦人の肌のすばらしい所以だね」

といつて感心したことがあるが、或はさう言ふ作用があるかも知れない。

核桃肉

……玉華臺で御馳走になりし核桃肉の味ひは、世界各國いかなる甜きものもこれに及ぶ美味は無之、東京の梅園三好野のおしるこ、ぜんざいの如き、これに比べては物の數ならず、眞に天下一品と稱すべく候……

これは私の日本知友で、おしるこの大通がよこした手紙の一節である。

昨年の冬、彼が北京見物に來た時、錫拉胡同の玉華臺に招いたところ、口を極めて核桃肉の美味を賞め、東京に歸つてからも、來る便りのうち必ず幾行かを核桃肉について書き添へてゐるその旨さが魂にまでも滲みこんだものと見える。

小豆が日本のおしるこの主要材料であるが如く、核桃肉は胡桃を主要材料としてそれに牛乳を加へた實に贅澤なおしるこである。一年中あるにはあるけれども、初夏は胡桃のしゆんだけに初夏の核桃肉がなんといつても香りがいゝ。

搶青蝦

初夏のころ、前門外五道廟の春華樓に行つて「搶青蝦」といふ料理を召上つて御覧じろ。スープ皿にヒゲだけ剪み切つた一寸位の川蝦を盛り、それに生薑をきざみこんだ酢醤油をかけて出す。それがこの「搶青蝦」である。

なにしろ活きたまゝなので、どの蝦もピク〳〵動き、中にはピンとはね上るのもある。鯉の生作りをぽくつく日本人もこれにはちよつと面喰ふ。

この生の小蝦を口に放りこみ、巧みにその肉を吸ひ取るやうにして喰べ皮を棄てる。簡にして單だが實に珍味。

氷が解けると間もなく、この料理が始まるが、ひと春すぎたころがいちばん肉をもつて美味しい。春華樓や玉華臺などの楊州料理屋がいゝ。

支那芝居雜觀（一）

石原巖徹

看る芝居と聽く芝居…北京言葉では芝居を觀ることを聽戲と云ふ。これは支那劇が歌曲本位に發達して來たので、視覺よりも聽覺に訴へるものを重んじたからである。然しながら、看る芝居即ち視覺に訴へるものが決して少くない。北京で發達した支那劇を近代化して、種々の變革を加へようとしてゐる上海劇では、殊に看る芝居を重んじてゐる傾向があるが、こゝではそれには觸れないで、本場の北京劇に就て語る。

聽く芝居としては老生劇、正淨劇、青衣劇、及び黃派（天津派）の武生劇老旦劇等を主とする。老生劇は忠臣賢將といつた型の人物を主役とするもので、念白（せりふまはし）及び、歌に依て藝術を發揮する。馬連良、譚富英言菊朋、李盛藻等が現在第一線で働いてゐる。正淨劇は、同じく忠臣賢將ではあるが多少缺點のある人物を主役とするもの、この役の特徴は顏に黑色本位の隈取りをするので一名を黑頭とも云ふ。念白、歌唱ともに豪宕沈痛を極め、老生の儒雅と又別の趣がある。この役には現在人材乏しく、大御所金少山一人を擧げ得るに過ぎない。青衣劇は、貞女烈婦を主役とするもの、主として歌唱を聽くべきである。近頃は純粹の青衣役者として立つ者少く、現在程硯秋一人氣を吐くのみ。尙小雲、梅蘭芳等も曾ては青衣役であつたが、今日は傾向に變化を來してゐる。黃派の武生といふのは天津で名を擧げた黃月山（清朝末期）を元祖とする一派であつて、豪傑俠客等の役である。武劇とはいふものゝ武藝即ち立廻りは從であつて、主として悲壯慷慨の調を帶びた歌唱を聽く芝居である。先年大御所李吉瑞歿して後繼者無く、今日は僅に李と同門の、老優馬德成一人を存するのみ。老旦劇は、年老いたる婦人を主役とするもので、これは全く歌唱を聽く芝居である。これ亦今日人材乏しく李多奎一人わづかに面目を保つてゐるのみである。

看る芝居は、古くからあるもので立廻りを主とする武生劇、武旦或は刀馬旦劇、花旦劇、新傾向として文武老生劇、花衫劇等がある。武生劇は、前述の黃派の劇を除いたもので、英雄豪傑俠客等を主役とし、主として武勇を所作及び立廻りに依て表現する。從的には念白も必要である。この役には空前絕後と云はれた名優楊小樓が昨年歿して、目下特に傑出した人材が無い。古い所で尙和玉、これは七十餘歲の老人だが、型の好いこと天下一品と稱される。但し喉が惡いので、立廻りと念白兼ね備へた楊小樓に及ばない。中老に周瑞安、若い所では李萬春、李少春等が問題になる。武旦（刀馬旦）は女形で立廻り專門の役、日本で云へば巴、板額といつた女勇士の芝居。見せどころは槍や刀を曲藝の如く使ふことにある。現在朱桂芳、閻世善の二人が美しく又藝達者である。花旦劇は、一種のヴアンプ役を主人公とするもの、これは所作と眼の働きを重んずる。小翠花と毛世來が好い。文武老生劇は、筋を本位とする時代劇で、上海から發達したものである。花衫劇は梅蘭芳に依て創始された美貌の女形を主役とする新作劇、概して眼先きの綺麗な芝居で素人向きである。この劇は時流に投じてゐるので、俳優も男優女優とりどりに多士濟々である。

臺所經濟

初めは色々と不自由ばかりでしたがこちらの様子も判り、改造支那家屋の生活にも慣れてきました。家庭の主婦として申上げることは、やはり臺所口の話になります。

△燃料　ガスの無いことは都會生活に慣れた者には一ばんの苦痛でした。こちらでは煤球兒といつて煉炭の粗い小さいのを使ひます。これは焚きつけるのに要領があつて、上手になつて半時間、慣れぬと一時間はかゝります。その代り火力が強く長持するので使ひ慣れると重寶です。薪はとても大切で、百斤一圓七十錢といふ相場です。

△食料　キツコーマン醬油が一升一圓十錢、味噌百目十三錢、白砂糖二十五錢、角砂糖三十八錢、鹽一升三十四錢日本酒一升四圓二十錢、澤庵一本六十錢、米三斗叺十二圓…といふ工合。魚類は小鯛一匹五錢で、たまにまぐろ、たひなど慾をだすと目玉が飛出るほどです。しかし肉類は大變安くロースで百目五十五錢、豚は三十五錢見當、野菜類も内地とは比較になりますまいが満洲より割安です。結局、此處まで出て來てなほ日本料理に執着するのが間違で、支那の材料を使ひ、安くておいしい支那料理を適當に家庭料理に取入れる心掛けが肝要だと悟りました。

△電氣・水道　電氣は一キロ二十錢、水道は最低二圓。

△洋品　満洲より二割高、化粧品も二割高でせう。どちらも非常に品薄。

だいたい行商人が少いので、毎日遠い處まで消費組合や魚菜市場へ買出しに行くのが大變です。その足代つまり人力車賃も一回には五錢十錢ですが毎日のことですから、主婦のお財布にはなかなか馬鹿にできません。

△家賃　これは驚くばかりで六疊と三疊ぐらゐで改造支那家屋だと五、六十圓はとられます。それも今では手近に空屋はないのです。今後來られる方には一ばん大きな惱みの種でせう。

かう書いてきますといゝ所はちつとも無いやうですが、主人のお給金もそれだけ多く戴いてをりますし、古都北京の美はしい風物の中で物靜かに生活し得ることを私達は寧ろ幸福に感じてゐるのです。いま前庭のライラツクは満開でむせるやうに匂つてきます。

旗袍と洋装

ついこの間まで北京でも日本の女が通ると云へば振返る位だつたのが、この頃はめざましい進出振りで別に珍らしいことはありません。

ところで彼女達の服装といはゆる北京摩登女性のそれを美的な眼から見た場合、總じて日本女性が劣つてゐるやうです。

現在の支那服といふのは清朝の天下になつて支那全般に行わたつた満洲服で、女の服を旗袍と云ひます。肩の線から腰の線にかけて全體にすんなりした服で帶を用ゐず、裾の左右兩脇を割つてありますが、摩登女性達は思ひ切つて高く裂いてストツキングの脚線美を見せる。こんな流行の源は大體上海で、支那の女性が自分達の脚線美に氣付き出したのは上海の外人服飾業者の宣傳によるものが多いさうです。

それはともかく四月時分になると、この旗袍の袖短かく颯爽と自轉車を乗廻すところなど東京銀座にも見當らぬことでせう。それがいかにも板についてゐて、又旗袍の上に毛絲のセエターを着るなど、うまく洋装を取入れてをります。靴はハイヒールか、でなければ男の靴に近い平踵のものが多い。髪は斷髪に特殊なパーマネント。これはやはり西洋人の眞似には違ひなく、斷髪の緣に沿つてウエイブをかけてゐるのですが、ブツツリ水平に切つたのでなく後下りに高い襟をかくす程度になつてゐて見た眼にすつきりします。最近この様式を日本女性達が取入れてゐるやうですが、どうも見榮えがしないのは全體としての不調和から來るのです。又日本の女性が支那服を著るのは割に似合ふけれども脚線美では及びません。

しかし北京は面白いところでさうした隨分思ひ切りのよい尖端女性が濶歩する反面にまだ封建的な纏足の女性もゐるのです。これは北京だけでなく、支那全般すべての文化面について云へる新舊對立の現象ですが、實際は進歩的なインテリ階級の數は知れたものです。しかし確かに動くものは動いてゐます。最後に日本人の特に女性の服装ですが、從來満洲でも喧しく云はれて來たやうに、一は大陸生活に順應した衞生的能率的な見地から、一は外人の蔑視を受けないための道德的見地から相當眞劍に考へらるべき問題でせう。

よくなる北支

こんど、北京から南京へまつすぐ行ける津浦線といふ鐵道線路が通じました。この線の途中には、みなさんよくご存じの黃河の大鐵橋があります。映畫のニユースで見た人もあるでせう。支那兵が逃げがけにこわしてしまつたのを兵隊さんや鐵道の小父さんたちが、長い間くるしい仕事をつゞけて、りつぱに造りかへて下さつたのです。また北京に資本(もと)が三億圓といふびつくりするほど大きな會社ができました。これから北支や蒙疆の鐵道やバスを一手にやる會社です。

北支にゐる兵隊さんや鐵道の小父さんたちは、事變が始まつてからもう二年間も、淋しい山の中や危いところでがんばつてゐるのです。あんぺらの上にねて、あわめしにねぎをかぢつてゐる人もあります。匪賊といふ惡者が襲つてくることもあるので、ゆだんはできません。これから暑くなるので、またひとくらうです。こんな惡者に備へるため、北支や蒙疆の鐵道沿線には鐵道を護る鐵道愛護村があります。そこには日本のボーイスカウトのやうな服を着た愛路少年隊があつて、勇ましく働いてゐます。この少年たちがみんなで匪賊を捕へた勇しい話はたくさんあります。先生は日本の兵隊さんで號令は日本語です。きつとみなさんとも仲好しになれるでせう。

かうして、日本のおかげでだんだん平和になり好くなつてゆくので、支那の人たちも大變よろこんでゐます。

にちようび

きのふのにちようは　りくぐんびよういんで　うんどうかいが　ありました。四ねんせいからうへは　みんなバスでいつて　へいたいさんや　かんごふさんと一しよに　きようそうしました。びようきのへいたいさんは　けんぶつです。パンくいきようそうや　きしやごつこなど　とてもゆかいでした

にちようには　ぼくたちはよく　りくぐんびよういんに　みまいにいきます。ぺきんには　ふしようしたり　びようきのへいたいさんが　たくさんゐるのです。ぼくたちがゆくと　おもしろい　せんそうのはなしや　しなへいのことを　はなしてくれるのです。

ラクダ

ミナサンハ　ドウブツエンデ　ラクダヲ　ミタコトガアルデセウ。アノラクダガ　ペキンノマチノマンナカヲガランガラント　スズヲナラシテ　トホリマス。

ラクダノメハ　パチリトヒライテマバタキモシマセン。セナカノコブニハ　シバウブンヲタメテ　ヰブクロニハタクサンノ　ミズヲタメテ　ナガイナガイ　サバクノタビニモ　ヘイキデス。ヒヅメノトコロハ　マルクヒラタクテ　アツイゴムノヤウニナツテヰルノデ　スナノウエヲ　アルクノニモコマリマセン。カラダノケハ　モウフヤオリモノニ　ツカハレマス。

トテモ　オトナシクテ　ツヨイドウブツデスガ　オコツタラ　イフコトヲキカヌサウデス。ペキンノジヤウモンノシタヲ　トホルトキ　デンシヤガキテモ　スコシモアハテズニ　ナガイアシデ　ユツクリ　アルキマス。

◇

蒙疆聯合委員會が昨年八月から賣出した福利獎券（彩票――一圓）はその發行趣旨も華蒙民衆によく徹底して飛ぶやうな賣行を示して來た。そこで委員會では、六月十四日抽籤の第十回分から從來の發行枚數一萬を一擧三萬にすることとした。それだけ資金も豐富となつて蒙疆福祉工作もいま一段の充實を加へることとなる。それにともなひ當籤福の神も大きく財布の紐をゆるめて當籤金額の頭獎三千圓を一萬圓、二獎千圓を千五百圓、三獎百圓を五百圓とし、四獎五十圓、五獎十圓、六獎五圓となつた。ところで現在までの頭獎當籤者は日本人は一人で、あとは總て華、蒙人だ。偶然のことながら甚だ蒙疆福利獎券賣出しの趣旨にかなつてゐる。それでは日本人では當るまいなど逃げず、一枚買つて一穴大きく當てて見てはいかが……。

◇

華北財界の有力者を網羅した訪日經濟視察團は、各方面の歡迎を受け、日本經濟界の豪勢さに深く感銘した。何事によらず舞臺裏には人知れぬ苦心のあるもので、主催者側現地機關の北京日本商工會館では「華北のお客様のたべものには……」とあれこれ熟議の結論は――「本場の人に場違ひの支那料理はどうもなどと遠慮は無用、大いに支那料理を出すこと。刺身に酢のものお吸物では腹がくちくならん。すき燒と天ぷらと一緒でもくどくはない。お酒のつまみにお座敷天ぷら、盃も皿もたつぷり數を重ねて、では御飯にしませうとすき燒を出せば、好吃好吃（オイシイ〳〵）は請け合へる」でケリ。

◇

北支の水運業界に青帮が大きな勢力を持つてゐるが、この青帮は緊密な親分乾分の關係で結ばれる封建的祕密結社で、正當な職業に從事する一面には暴力團的な地下組織を持つてゐるといふ特殊な存在だ。その團結力は非常に鞏固で、親分の上にまた親分、またその上に大親分と縱に緊密なつながりを持ち、總數は或は百萬、或は三百萬と云はれ、全國に細胞組織を配し「武裝せざる軍閥」の形。この青帮が、今度北支軍當局の監督を受けることになつた。といふのは、北支軍當局で、治安確立まで當分の間、北支の河川、運河の航運業の直接監督に當ることになつて、昨年六月天津に結成された中國內河航運公會をその統制機關に指定し、一切の業者をこれに强制加入させるといふ。つまり、北支水運の勸進元青帮も軍の直轄下に這入るわけ。そこで青帮も新秩序建設上、彼等の「潛む力」にものを云はすといふ次第。

◇

北京へ北京へと邦人のラツシユは物凄い。北京日本警察署屆出による三月末現在の在留邦人は戶數一萬二千餘戶人口三萬餘。事變前に比較すると七倍半の激增ぶりだ。內地人だけをとると二萬一千五百餘人。二月末に比べると一千百餘人の增加で、一日五十八人の割合で殖えてゐる。これに未屆を加へると實數は四萬を越えてゐるに相違なく、年內に七萬の聲を聞くだらう。

◇

興亞の波に乘つての邦人增加は喜ぶべきだが、北支各地とも住宅飢饉、それにつれての法外な家賃値上りで悲鳴を上げてゐる。なかには支那人から借りた家を不當な値で又貸して甘い汁を吸ふ不心得な藝當を演ずる者もある。こんなてあひはどし〳〵嚴罰に處す――と關係當局はより〳〵經濟警察制を立案中である。贊成々々、びし〳〵やつて貰ひたい。だがちよつと待つた。それと一緒に土地建物會社の設立を賴みます。まだ一つ、對支向け輸出が緩和されて建物資材の潤澤な供給が先決問題。

◇

華北交通會社では、北支綠化を目指す造林三十ケ年計畫を樹て、先づその手初めに北京鐵路局で植樹週間運動を行つた。期間も四月六日の植樹節を中心とする五日から十一日までで「樹を養ひませう」と沿線一帶に呼びかけ期間中は管內の站（驛）や各地愛護村に各種の樹苗を配給した。なほ北京、新通州、長辛店、保定、石家莊、順德彰德、新鄉、陽泉、太原の各警務段（區）に二百五十本づつの櫻樹を配り、前線に殪れた將兵及び鐵道員の墓地やら、皇軍力鬪の戰蹟地や、驛構內などに植ゑた。しきしまのやまとごころの咲き匂ふ春も遠からじと云ふもの。

◇

英佛租界の存在は、天津明朗化途上の癌だ。日本租界から、盟友イタリイ租界へ行くには、英佛租界を通らねばならず、有事の際はもとより經濟上にも日常生活にも不便で不快だ。それだけに日本租界と白河對岸のイタリイ租界とを結ぶ先頃の永久軍橋の架設完了が喜ばれてゐる。長さは百五米、幅は七米。木の香も新しく純日本風の木橋

その名も望郷の思ひを罩めて日本橋と命名されたが、この天津防共橋の渡り初めが今年の陸軍記念日だつたのも淺からぬ因緣。

◇

さき頃、新民會天津都市指導部主催「東亞新秩序座談會」での一中國指導員がつくづく嘆じての話に、「中國留學生は、英國に留學したものは英國贔屓、米國に留學したものは米國贔屓になるのが例だが、妙なことには日本留學生だけは、大半が熱烈な排日家となる。これはお國がらお時勢とは云へ、留日中での居心地のわるさにも關係する。學校や下宿やら個人的な交友は情愛にみちてゐるけれど、一般の空氣のどこかが居辛い感じを與へる。學友の一人二人とか通りすがりのあんちゃんが無造作に輕蔑した言葉を投げかけることがあつて、そんな時のくやしさが何にもまして不快な印象を植ゑつけてしまふのだ」と。今は亡き中國プロレタリヤ文學の父魯迅が、地下にもぐつて抗日プロレタリヤ運動に馳驅してゐた頃、彼は仙臺醫專時代の恩師藤野先生の寫眞を常に懷にしてゐたといふ。そして遙に藤野先生の死を傳へ聞いた時、追懷の情に堪へず珠玉の名篇「藤野先生」をものした。至情切々、思はず目頭が熱くなる。――藤野先生の心こそ我々の心でありたい。

◇

信徒數千萬の先天道會は「先天道防共救國會」を結成、吳佩孚軍のルーデンドルフとうたはれた蔣雁行氏を會長に、紅槍會に重きをなす江洪濤氏を總裁に推し、先般、北京懷仁堂で發會式を擧行、集るもの一萬餘。全國信徒に告ぐるの書を發表した。

◇

東京の表玄關が丸の內驛と呼ばれたとしたら日本の首都としての感じが出ない。北京の表玄關が正陽門(チャンヤンメン)站(チャン)では觀光の古都としての名にふさはしくも新秩序建設途上の東亞の一首都の名にそぐはない、といふので四月十日から北京站(ペイチンチャン)と改稱された。これと同時に北支鐵路各驛のフォームの立賣や車內販賣員や赤帽も小綺麗な制服姿で旅客サービスに當ることとなつた。ホーム立賣人と車內販賣人は黑地折襟服、綠色の帽子といふスマートさ。赤帽は支那服の上に淺黃色雲齊木綿のチョツキ、帽子には「荷物運搬人」とハッキリ書かれる。

◇

北京の大きな支那料理屋に行くと、黃色地に細い花模樣を配した揃ひの皿が出る。裏を見ると光緒年製と字が這入つてゐる。なるほど支那は骨董の國よく疵もつけずに保存するものだなどとあわてて感心してはいけない。大抵それが名古屋あたりから買入れた瀨戶ものと知るべし。贋物は承知の上で、文字面の上だけでも骨董らしく見せないと承知出來ないところに支那人の骨董好きが窺はれる。これはほんの一例支那陶器の本場唐山あたりで造る巧妙至極な贋物に至つては案內書片手の旅行者の手にはおへぬ。東安市場(トンアンシイチャン)（大正時代の上野の勸工場を思ひ出して下さい）の骨董屋が日本人目あての贋物をぢゃん／＼造り出し、硝子の翡翠まで相當の値上りを呼んだといふこと。三越の某重役が北支旅行の際の話に、繪柄の面白い支那綢緞を買はうとすると正直な店員がこれは日本ものですよと注意してくれたが、その重役の曰く、日本ものでもこの柄は日本で買へぬと土產ものに作らせたさうだが、これが寧ろ買物上手。なまなかの古物あさりより、結局氣に入つた支那趣味のものを買ふのが上策であらう。

◇

滿鐵調査部の大擴充案が愈〻具體化される。松岡滿鐵前總裁は「これで後藤新平さんに顔向けが出來る：：この三十年間一筋に流れ貫いた意思が遂に國策機關として實を結んだのだ」と感想を洩した。擴充調査部の總帥として迎へられた山東鑛業社長田中清次郎氏がその上の滿鐵初代理事であつたことも素志貫徹の喜びを裏書するものだ。その調査範圍は滿洲、支那を初めソ聯關係、南洋關係、防共提携關係から世界經濟にまで及び、十四年度調査費九百萬圓、數年後には二千萬圓まで引受けられると云はれてゐる。今は昔の語草だが、ワシントン會議の際に、日本に「チャイナ・イヤ・ブック」に太刀打つ資料がなかつたばかりに酷い苦汁を喫した經驗もあることだ。三十年の大陸經營史と、八億の資本と、豐富な人材とを誇る滿鐵大調査部が、今後その潤澤な資金に後ろだてされての學術的活躍こそ期待されてよからう。滿鐵の分身「華北交通株式會社」が生れたに就ては北京在來の滿鐵調査機關（舊名北支事務局調査部）が二分されて一は新會社に編入、一はそのままなが名前は新たに「滿鐵北支經濟調査所」の看板をあげた。

◇

傳書鳩

北京ごよみ 六月

五日（舊四月十八日）

△北頂（ペイティン）郎ち碧霞元君廟の廟會。廟會は日本の寺の開帳に當る緣日で祀神は道敎の娘々で子授け、治病に靈效ありと謂はれ、日用品や農具の市も立つのでいかにも鄙びたお祭氣分を呈する。所在は德勝門外土城の東北

△東頂（トンティン）の廟會。東直門外、同じく、娘々廟、日用品、農具の市が立つ。開廟一日。

九日（舊四月二十二日）

△宛平縣城隍廟の廟會。地安門外にあり、城隍神を祀る。開廟一日。

十五日（舊四月二十八日）

△看丹廟の廟會。右安門外、開廟一日。

△新曆六月は舊曆四月の半に初まるが、この月は廟會の全盛月で各娘々廟も次々に開廟になる。又花は西山の李花、海棠院の海棠、中央公園、北海、豐臺の芍藥など見事。果物ではさくらんぼう、桃など出始める。

十七日（舊五月一日）

△都城隍廟の廟會。西單牌樓成方街路北、廟市（開帳を兼ねて立つ市）が立つて兒童玩具、扇子、雜貨等が賣出されて賑ふ。期日は十五日間。

△臥佛寺の廟會。崇文門外にあり、寺內の大きな臥佛で有名、その背後に十三の脇侍が立つ。開廟十日間。露天雜貨屋、藝人など出揃て賑ふ。

△南頂（ナンティン）の廟會。永定門外馬駒橋にあり、祀神は娘々、開廟一日。

△北頂の廟會。（前揭參照）一日。

△大興縣城隍廟の廟會。安定門內大興縣街にあり、ここの神像は籐製の珍しいもの。開廟一日。昔この日に出巡と謂つて城隍神が街を巡られた

△十七日（舊五月一日）から五日間は端陽節又は端午節で、民家では門墻の上に天師の五雷護符や五毒符、（何れも魔除けの色刷紙）を貼る。婦女子は長命縷（日本のクスダマに當る魔除の護符）をつけ、柘榴の花を簪にする。男の子は雄黃と云ふ顏料で額の上に王の字を書く。又端午索と謂つて菖蒲で編んだものを冠るものがある。民家では佛前に粽子（チマキ）を供へ、五毒酒を飲む。

△十七日（舊五月一日）から二ヶ月程十刹海（地安門外）の畔に遊樂場が立つて人出が多い。この頃女の子は鳳仙花を摘んで指爪を染める。時節の花は鳳仙花、夾竹桃、白玉蘭、瑞香花など。

二十一日（舊五月五日）

△この日の正午に古墨を蛙の腹中に注射して日に乾す、これは毒氣の病氣に效くと謂つて保存する。尙この日、劇場では「五毒傳」といふ應節の芝居を上演する。

二十七日（舊五月十一日）

△關帝廟の廟會。永定門外、開廟五日間、道敎の寺で關羽を祀る。獻納芝居や競馬など行はれて賑ふ。

二十九日（舊五月十三日）

△雍和宮の開廟。內三區雍和宮大街にあり、北京第一の喇嘛寺。舊曆正月三十日と二月一日の打鬼（惡魔拂ひの式）は有名。

昭和十四年五月十五日印刷納本
昭和十四年六月一日發行

六月創刊號
（毎月一回一日發行）

編輯者 北京・華北交通株式會社資業局資料課 加藤新吉
發行者 東京市麹町區三番町一 長谷川巳之吉
印刷者 小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社 君島潔
發行所 東京市麹町區三番町一 第一書房
振替東京六四二二三番
電話九段（33）一四一五番 三三四四番

一册定價 三十錢（送料六錢）
一ヶ年分 金三圓六十錢

廣告取扱
大阪市西區京町堀上通一丁目二五
一手取扱所 一新社
電話土佐堀九三九

方面軍檢閲濟